言海原稿

第一号

洋学文庫
文庫8
A 149
7

あ

言海原稿　第一号

大槻文庫

特
118
199
(ア)

あ【畔】霊異記中第廿八「畔、阿」

源順集「アラサヾト打返スラム小山田ノ苗代水ニ濡レテツクルあ」（首尾ニあヲヨメル歌）入九集ケヅル

あ感【噫】（ああニ同ジ）天治字鏡二十六「噫、心驚也、阿」（霊異記ケヅル

あ代【吾】……庭訓往来「阿が心」萬葉二十、十三「君ヲ吾が思フ時ハサネナシ」 古事記ケヅル

ああ感【嗚呼】……字類抄「嗟、噫ア」孝徳紀「咨爾軽皇子」

ああ感【呵々】笑フ聲。神武紀「皇軍大悦、仰天而咲云々、阿々云ニ」

私記「阿々、咲聲也」

ああ感【呱々】生児ノ初聲。「オギャア」紫式部日記「 サガス

あ 接頭 「阿」支那ニテ女ノ名ニ冠ラシムル語、我ガ邦ノお梅、お竹ノおト同ジニカル

ベシ。日知録、三十二「謂武后為阿武、韋后降為庶人、称阿韋」

ああ 感 嗚呼ト云フニ同ジ 「ああら不思議ヤナ」

あい 「鮎」あゆノ轉。神代紀上ノ三十七「尾張國吾湯市村」景行紀ニ、

年魚市（アユチ）」和名抄五ノ六「尾張國愛智郡阿伊知」

あいあいと 「副」「藹藹」茂ルヽ又盛ナル貌、壯ニ云フ語「和漢藹藹タリ」

~~あいあい 「靄靄」カハユカリテノダル~~

あいあい 「欸乃」おうあいヲ見ヨ

あうあい 「欸乃」ヽヽ、フナウタ。顧野王玉篇、巻首、奇字指違、

欸乃、音襖靄、舟中歌聲」（海録二七。）柳ノ詩ヽヽ

挨拶

鯉ノ鰓ハ、タ
推ト呂ヒ強ノ
觸ルニテ拶ト
云フ

大書故、挨、亭ク、排ヲ也、集韻、挨、拶、相排迫也

あいさつ（挨拶） 多人数（群集ニ）押シアヒヘシアフコト 簑海類編、八「挨、推

也、拶、逼也」 葛長庚ノ鶴林問竹篇ニ「元子登封泰山、其時士

庶挨拶」 ○ （推合フ意ヨリ）禅ニ問答ノ機ノ一機、一言ニテ来者ノ胸中ヲ（推問意）

試ムルコト 碧巌集（第二十三則）「一言、一句、一機、一境、一出、一入、一挨、一拶、要（見深浅）

見向背」 ○ （推問ノ意ヨリ）受ケ答ヘ、応答、応對 ○ 返答、返事、答辞

○ 時儀ヲ云フコト、辞令 西行談抄ニ「然レバ人々ヨクツケサセムトあいさつニ

人モエツケズ、程経レバ無ナシ」

碧巌集 第廿三則ニ僧ノ悟道ヲ試験スル問答ニ起ル、（文字ノ）智者ノ智ヲ深

淺ヲ挨查スルコト （全將石試云ニ水將杖試（深淺ヲ見ル）至ニ前ニ納僧門下

下学集 雑 庭訓往来 鯉鰻織 酬答 一冨 饌辞 挨拶 得便

あいせうす　出典 盛衰記四十……（題目ヲ入レル）

あいしやう　哀傷……歌集中ノ部類ニ哀傷ニカヽル歌ヲ集メタルトコロ。

あい（感）　嗟ノ聲。あゝ。お。。聰来傳ノ傳ニ對應ノ聲（アイ）。（李ニカキイレル）

あいす……（二）ノ末。「子ヲ愛ス」ノ上ニ入ル
堤中納言、虫メヅル姫君「コノ虫ドモヲアシタユフベニあいしタマフ」

あいだちなし　キ・ケレ・ク・ク（形ニ）（愛立無シノ義）（愛ダツコト）（愛メク）立ツ、夕立ツナド。
同ジ意ナリトス」愛敬ダツ状ナシ。愛想ナシ。「ツレナシ」特ジテ、アイダテナシ。無情
源、夕霧「モトヨリサル方ニナラヒタマヘル二條ノ院ノ人々ヲ、トモスレバ、メデタキタメシニ引キ出デツヽ、心ヨカラズ あいだちなき物

10

相岸木村製

ニ思ヒタマヘルワリナシヤ」同、宿木　「心ニモアラズマジラヒ、イトド、思ノ外ナ
ルモノニユゾト世ヲ思ヒタマヘ乱ル、事ノミナムマサリニタルト、あいだちなく
ゾ思ヘタマフ」△醒（笑）睡、四「ソレヤウニあいだてなきサウニ物ハ言ハヌモノヂヤ」

あいだる　ル・ニ・ルレ・レ・レ・レヨ（自東）（下二）〔愛重ル、意トス〕愛敬コボル。
婀娜　名義抄「嫷、アイダレ」説文「嫷、嬌也」

あいなし・き・けれ・くく（形二）無愛（一）イトホシカラズ。カハユゲナシ。枕草子、三
「愛敬オクレタル人ノ顔ナド見テハ、ヤトヒキ寄セモセズ、ゲニ其色ヨリシテ、あいなく見エ
ルヲ」落窪、一「昨夜（ヨベ）ノ心ハ、カギリナク、あいなく、心ヅキナク、腹キタナシ」今
昔、一「家毎ニ行キテ、物ヲモ食フ事アリ、憎ク無愛（アイナシ）ナリ」
（二）無ジテ、オモシロクナシ。アヂキナシ。源、宿木、十三「待ツ夜多ク過グシタマフ
コソ、アハレナルベケレナド、思ヒ寄ルニツケテモあいなしヤ」落窪、四「一所ノ御上
ヲヤカキイダス、あいなけれバ、カヽズ」蜻蛉、上「吾ガコヽチノ、サハヤカニモアラネバ、
ツクヅクト臥シテ思ヒアツムルコトゾ、あいなきマデ多カルヲ」海人ノ藻汐、中「連歌ノ
最上手ト、名誉ニハアリトモ、歌ヲ一句不沙汰ナラムニハ愛子ナルベシ」
（三）無ジテ、カヒナシ。センナシ。無益ナリ。源、松風、十四「コヽカシコノ立石ドモ、皆
マロビウセタルヲ云々、カヽル所ヲ、ワザトツクロフモ、あいなきワザナリ」徒然草、七
十五段「世ニ語リ傳フルコト、誠ニあいなきニヤ、皆、空言ナリ」

あいなーだのみ（名）〔あいなし（三）かひなし、ノ語根〕詮ナキ頼ミ。アテニナラヌ
望ミ。源、宿木、十九「ツラキ心ヲ忍ビテ、思ヒナホラム折ヲ見ツ
ケムト、年月ヲカサネムあいなだのみハ、イト苦シク」

あゐのかぜ（名）あゆのかぜヲ見ヨ。

あいつつじ（名）山榴〔秋ツヽジノ音便〕羊躑躅ノ類ノ秋ニ花咲クモノナルベシ
和名抄、二十ノ二十八「山榴、阿伊豆々之、良、山石榴有也」
〔花〕異羊躑躅「相似矣」林逸節用「山榴　アキツヽジ」

あいや（感）噫否（アイヤ）。然リ然ラズ。狂言記、富士松「供ヲセイト云フコトカ、あ
いや参リマスル」

あいろ　隆朝日記、雨宿屋「物ノあいろモミヅ島ノ」あいろモワカズ」

あうしうたんだい　奥州探題　探題ヲ見ヨ

あうじゆ　鸚子〔ヽヽ〕ニエびそのきノ實、其條ヲ見ヨ。和名抄、十七ノ四「鸚鵡實、
阿宇之智」台記、天養元年四月「鸚鵡實、云々、其色紅、大如棗、云々、其味甘
焉」

あうしゅくばい 鶯宿梅 ・・・・ （末ニ）天暦ノ御時、清涼殿ノ御前ノ梅、枯レタリシカバ、紀貫之ノ女ノ家ニ美シキ梅ノアルヲ掘リテ移サシムトセシニ、主ノ「勅ナレバ、イトモカシコシ、鶯ノ、宿ハト問ハバ、イカガ答ヘム」ト詠ミシ歌ニ因リテ名アリ（大鏡、下）

あうぞく 罌粟 草ノ名、ケシ。

~~あうまし~~ あおまし ・・・・ （末ニ）挟衣、一ノ下「人人ノサワグニ、あうあく起キアガリタルニ」（三十五丁ナリ今年三ヲ入レル）

あうむ 鸚鵡 （二）ノ注ノ末ニ 孝徳紀「新羅献ニ鸚鵡ニ」 枕草子 三、鳥「異国（コトクニ）ノ物ナレド、あふむ、イトアハレナリ、人ノ言フラムコトヲマネブラムニ」

あうた 篗籅 字鏡集ケヅリ 名義抄、六部「篗籅、アミイタ、アロタ」

アカ 閼伽 （三）ノ解釈ノ末ニ 希麟音義、五「閼伽、梵語、即盛ニ香水杯器之總名也」
六供養ニ、閼伽ヲ以テ物ヲ献クイアリ、振鈴ノ條ヲ見ヨ。
（三）ノ末ニ 船底ニ溜リタル水。舟湯（フナユ）エ。舟人ノ水トヲ云フヲ略シテ云フ語ナリ。淦 淦水 客水

あかあか（名）赤々 赤小豆（アカアヅキ）ノ女房詞。

あかうそ 赤嘘 全ク根モナキ嘘言。〔髪ノ毛赤ケレバ云〕

あかびと 赤人 寛政文化ノ頃、北海道ニ来リシ露西亜人ノ称。赤蝦夷（アカエゾ）。

あかえぞ 赤蝦夷 あかびとニ同ジ。

あかがさ 赤瘡 あかもがさニ同ジ

あかかき 垢掻 流シ ナガシ、サンスケ。風呂場ニテ脊ナドノ垢ヲ洗フ者（備前老人物語）

あがく　足掻　〔万葉注ニ〕字鏡十六ニ「跋、馬奔走皃、阿加久」蹀、蹀、阿加久」
（三）古事記上下ノ三「足ヲ阿賀迦ニ姤ミタマヒキ」空穂國譲「恐
ス事、平ラカニト手ヲあがき祈リ願立テサタマヒ」~~宇治拾遺~~
手足ヲ動カス。モガク。急ナイテダテアセリ、又ハ
苦ムニスル ロザナリ。 ~~手ヲ休レテ倒~~」
古事談「権守アワテ、西枕ニ倒レテ手足ヲあがく」
あかざ（藜）赤葉　本ニ　滔空幸庵對話「今川家ニ傳リ申候赤
葉ト申ス候、是ハ妙丹ニテ云云馬ノ息合其外色々能御座候」

~~あかぎれ~~

~~あかがり~~ 皸 ヽヽ 本ニ 閭東ニテ、スッポン。閭西ニテ、アカクリ。ケヅル

あうら　足占　あしうら ノ條ニ見ヨ

~~あかし~~ 〔赤〕（三）ノ条ニ 字鏡七十三「明、阿加志」萬葉五ノ「日月ハ安可之トイヘド吾ガ為ニ照リヤタマハヌ」又

あかし（形）明（二）アキラカナリ。アカルシ。字鏡七十四「明、阿加志」

~~あかう~~〔足〕足占 あしうらヲ見ヨ

濱若葉、下ノ六六「マバユク、ハヅカシクオボサルレバ、あかき所ニダニエサリ出デタマハズ」

同、浮舟「火あかう燈シテ、物縫フ人、三人居タリ」大和物語、ヨバステ「月

イトあかき夜」

（三）心ニ後暗キ所ナシ。心清シ。忠義ナリ。神代紀上ノ「将何以明爾

自言シテ
執着(シフヂヤク)ヲ見ヨ
著

赤心 萬葉二十ノ五十一「隠サハヌ安加吉心ヲ皇方(スメラベ)ニキハメツクシテ仕ヘ來ル」
續紀「明(アカ)キ淨キ直キ誠ノ心ヲ以チテ」

あかしまかぜ 暴風 あからしまかぜヲ見ヨ

あかざたう 赤砂糖 砂糖ノ製ノ粗ニシテ黄褐色ナルモノ。天光砂糖。

~~あかずきむ 鷽ノ條ヲ見ヨ~~

あかしほ 赤潮 海水ノ一面ニ赤クナリ、(褐色ヲ呈スルアリ)硅藻類又ハ微細ナル生物ノ過度ノ繁殖ニ因ルトコロ、多クハ内湾ニ起リ、魚類ヲ斃死ス
虎関禅師文集三和秊子胥十二「相之海水変赤自豆駿来距武総沿海濤三百餘里朱瀾丹濤汪洋粥也」

あかしまーる(副) あからさまヲ見ヨ

あかすり 垢磨 入浴ノ時、肌ノ垢ヲスリオトスニ用ヰル具、絹、呉絽ノ切端又ハ糸瓜ノスヂ。

あがた（三）縣ハ（斑田ノ畧、郡モ分ノ轉ナリ）（後ノ斑田ト異ナリ）

（一）古ヘ諸國ノ内ニテ山河ナドノ形勢ニ隨ヒ境ヲ立テ、農民ヲ斑チ置キテ田畠ヲ耕サシメタル地ノ稱、後ニ多クハ郡トセラレ、皇室ノ御料ナルヲ御縣ト云ヒキ。大和國ノ六ノ御縣、新年祭祝詞、高市、葛木、十市、志貴、山邊、曾布ナリ。縣主コレヲ管セシガ如シ。

（みあがたヲ見ヨ）崇神紀、七年八月「茅渟縣、陶邑」（和泉）縣ノ居行処、（十二年九月）豊前國長峡縣、同十八年五月「八代縣、豊村」（肥後）

あがたあるき（三）あがたありき

あがたしきし（三）あからさまヲ見ヨ

あがたき 縣 （三）（縣行？）ヲ見ヨ

あがた（三）縣（斑田ノ畧（後ノ斑田ト異ナリ）郡モ分ノ轉ナリ）ナラム。

（一）古ヘ、諸地方ニ、山河ナドノ形勢ニ隨ヒ、境ヲ立テ、農民ヲ斑チ置キテ、田畠ヲ耕サシメ來シ地ノ稱、縣主コレヲ管セシガ如シ。後ニ、大抵ハ、郡トセラル。皇室ノ御料ナルヲ、御縣ト云ヒキ。（其條ヲ見ヨ）崇神紀、七年八月「茅渟縣、陶邑」（和泉）景行紀、十二年九月「豊前國、長峡縣」同、十八年五月「八代縣、豊村」（肥後）縣ノ廢セラレテ後、其稱ノ國ニ遺レルナルベシ。

（二）後ニ、諸國司ノ官人ノ其任國ヲ指シテ云フ語トナル。萬葉、七ノ二十八「淡海縣ノ物語セム」（遠江）（遠江國司ナリト云）古今雜、下「文屋康秀ガ三河ノ掾トナリテ、あがた見ニハエ出デタタジヤト云ヒヤレリケル返事ニ云ヘル」土佐日記「或ル人あがたノ四年五年果テテ」（紀貫之ノ土佐ノ任國ニ云）

（三）轉ジテ、縣即チ任國ノ官人ノ稱。百寮訓要抄「諸國ノ司ヲバ外官トモ云ト、あがたトモ申スナリ」縣召ノ除目

（四）轉ジテ、地方、田舍。夫木、三十、田家「田面ナル葦屋ノ野ノ蘆ノ庵、コレヤあがたノ（ハ）シルナルラム」あがたアリキ」あがた巫

あがた―あるき　縣歩　伊勢物語「昔、あがたへ行く人ニ」田舍ニ行キメグルコト。井ナカアルキ。蜻蛉日記「上ノ下ニ今ハヒトリヲ頼ムタノモシ人ハ、コノ十餘年ノホド、あがたありきニノミアリク」

伊勢物語 四十四段「昔、あがたへ行く人ニ馬ノハナムケセムトテ（紀有常ノ任國ナリト云）

あがたぬし　縣主（縣ノ大人ノ約ナリ）上世ノ地方官ノ縣ヲ治ムルモノ、其職國造ノ次位ナリシカ如シ、世襲ナリキ。國[illegible]孝德天皇ノ朝ニ縣ヲ郡トセシ
~~ヨリ職掌モナキ其家格ノ称トナリテ遺レリ~~

神武紀「以弟磯城為磯城縣主」古事記中ノ五十九「定賜國國之堺、及大縣小縣之縣主」

(三) [illegible]ノ名、孝德天皇ノ御代ニ縣ヲ郡トセラレシ時、縣主ハ罷メラレテ其稱ハ其家氏ノ尸ニ遺レリ。

~~あかだゑ　赤團子　餅ノ異名、小兒ニスヽメルニツキテ云フ語~~

あがち（重）頒　あがつ（頒）ヲ見ヨ

あがつ　ツテ多ノ字　他四　班頒　散布　一　散ルノ他動。神代紀上ノ三十五「廢渠槽」此云秘波鵝都（波ハ阿ノ誤カト云）

(一) ワカツ。ハナツ。神代紀上ノ三十九「抜散胸毛」継体紀二十三年三月「散置諸縣」（人ヲ）。「葉花日蔭ノ此殿失ヌタヽヘリトテ大殿ヨリ多クノ人ヲあがちテ」~~「[illegible]散ナサレ」~~（求メ奉ラセタマフ）」

(二) 別チテ充ツ。班頒　神武紀七「以其酒宍班賜軍卒」天智紀九年三月「敷諸神座而班幣帛」蜻蛉中ノ下「破子持チ来ヌレバサマザマあがちナドシテ」

あかつきおき　曉起　(一) 曉ニ早ク起キ出ツルコト。朝ノ早起。後撰戀五「オク霜ノあかつきおきヲ思ハズバ君ガ夜殿ニヨガレセマシヤ」（春数入ル）

(二) 歌、連歌ニ釋教ニ云フ語。早起キシテ勤行スル意ナルベシ、連歌ニハ「哀ト歎

あかつきまうで 暁詣 朝ニ早ク社寺ニ詣ヅルコト、アサマヰリ。「遠き暁」ナド あかつきトノミモ云フ。

著聞集、十五「十四日ノあかつきまうでノ体ニテ夜ニ入リテ髪（カミ）ヲオロシケレバ」（毎月十四日ハ六斎日ノ一ナリ）

あかつきやみ 暁闇（アカトキヤミ） 暁ニ月ナキヲ云フ語、上弦ノ月ハ早ク出デ、（夕月（ユフヅクヨ））夜、早ク入レバ暁ハ闇トナル 下弦ノ月ハ遅ク出デ（夕闇（ユフヤミ）、宵闇（ヨヒヤミ）ナリ）

暁月（アカツキヅクヨ）

暁ニ残リ、朝月（アサヅクヨ）アリアケノ月トナル。⊕ 続後撰、恋一「夕月夜

あかつきやみノホノカニモ見エシ人ユヱニ恋ヒヤワタラム」

あかにのほ 赤丹穂 「にのほ」ヲ見ヨ。

上弦ノ月ハ早ク出デテ早ク入レバ暁ハ闇ナリ 下弦ノ月ハ遅ク出デ（夕闇ナリ） 暁ニ残ル月ヲ朝月（夕月（ユフヅクヨ））夜 アリアケノ月トナル

あかとり 「朱鳥」「垢取」（字ハ共ニ当字、明服ノ出処） 婦人ノ服、被衣（カツギ）ノ類、

錦袋抄ニ女ノ小袖ノ如ク垢ヲトルタメニ小サク作レル衣ノトコアリ 駿河ノ今川家ノ笠符ニ朱鳥ト云フモノ名アリ朝倉景衡ノ

貞丈雑記ノ装束ノ附ナリ故実ノ武家ノ婦人ノ乗馬ノ時ニ着ルヲ垢

取ト云ヘリ男子ノ道服ノ如ク塵ヲ防ガンタメニ着タルナルベシ（旅行）

續武家閑談ノ三ノ毛利元就上洛ノ供ニ女ノ装束ニあかとり見エ（あかとりヲ参見スベシ） 垢

あかだんだい 赤団子 灸ノ異名、小児ニ（スウルニ就キ）云フ語。文化ノ川柳「餅ニナル草（サメ）モ化ケルト赤団子」

あかたい 赤隊 俗ニ近衛兵ノ異名、軍装赤ケレバナリ。

あかのごぜん 赤御膳 あづきめしノ婦人語。

論語集註ニ著明衣ニ所以明潔其体也

あかば　明衣　あかばそう　皇

書ニテハアカバ。

あかばそう　「明衣」（明キ服ノ義）　又明ノコロモ。

（一）神事ニ用フル衣、着服ノ上ニ着ニ一重ナルモノ如シ。

践祚大嘗祭式「各給明衣及襷」明衣料絁二疋、調布二端」大神宮式、月次祭「禰宜乃女着ニ明衣ニ大神宮司着当色」」神楽歌、豆立「皇神ハ吉キ日祭レバ、明日ヨリハ、あけの衣ヲ、褻衣ニセム」皇

（三）主上ノ御湯帷子。あまのはごろもヲ見ヨ。

あかはた　赤旗　血ヒ赤染ノ旗、人国ニツクサンニ標トシテ用ヰルアリ。後化十四ニ「年月ノ始以赤幡班給大蔵内外大臣云云寺司供御物前建以為標」平家ニテ、戦場ニテ用ヰタリ。源氏ノ白旗ナドニ対ス

あかばな　赤鼻　人ノ鼻ノサキノ赤クナル病。古名、ニキミバナ。多ク酒ヲ飲ムニ因テ起ルモノ多シ。鼻頭ノ血管擴張シ充血スルナリ。點々隆起スルモノアリテ石榴ノ実ノ如クナルヲ石榴鼻ト云フ

酒齇鼻　齇鼻　酒齇鼻

あかひも 赤紐 (二)赤色ノ紐、上代、服ニ著ケタリ 古事記下巻、[illegible]
服著[illegible]「大雨云ニ其臣服著紅紐(アカヒモノアヲズリ)青摺衣ニ故水潦拂紅紐青皆変
紅色ニ(舎人ノ常服ナリ)同巻三十五、葛城山登幸「百官人等悉給著紅紐之青摺衣」
(三)後ニ青摺ノ小忌衣(ヲミゴロモ)ノ肩ニ緩ケ前後ニ垂ル(モノ)ニあかひもノ名ヲ存シテ
濃紫ト蘇芳トノ絹ヲ組合セ[illegible]鳥蝶ヲ白ク畫キタ(モノ)ヲ用サル。忌ヒモ。
枕草子、百廿六段、五節ノ舞姫「青摺ノ唐衣ニあかひもイミジク結ビテ」
テ云ヒシ
あかとき・やみ 曉闇 あかつきやみノ條ヲ見ヨ

(根岸木村製)

あかべ 「赤目」あかめノ訛、アカンベイ。
あかべた 「赤下手」(赤ノ條ヲ見ヨ)全クノ下手。技藝ノ極メテ拙キコト 色芝居(正徳)(江戸)女形ノ役者「京デモ貴ブハ又あかべたノ今日マデ
腰元役サテハお姫サマニシテオイタ櫻居ヲ一段昇進ニシテ立ス」
あがほとけ 「吾佛」(我大切ニ思フ人ヲ己ガ尊ビ念ズル持佛ニ比ベテ云フ語、我カ佛
尊シナド云フコレナリ)
竹取「カグヤ姫、物思ヘルケシキナリ(竹取翁ガ)コレヲ見テ あが佛何事思ヒタマフゾ」
空穂、俊蔭「若子ハ君ガ女君ニ あがほとけ・・・」
仲文集「あがほとけ 顔
徒然草「ヨキ女ナラバ、此男ヲゾニラウタクシテ あが佛ト守リ居タラメ」
あがまふる 他下二 「崇」あがむノ延。狂言記、富士松「猿ハ山王ノ使者デゴザル
マツあがまへテゴザル」
あがまま (名)「吾儘」わがままニ同ジ。大鏡、中「一天下ヲあがままニシテオハシマス」
あがみ (代)「吾身」對称ノ代名詞、わがみニ同ジ

あかーまそ　赤真魚　鯛ノ女房詞（柳巷話苑）
あかのーめし　赤飯　あづきめしニ同じ
あかむ　アカムルレ　基憐重欲後保養」ニ〔就学ス。〕ノ次ニ　神代紀下ノ三十二ノ「聞其児端正心〔永〕〔甚〕賞之」
あかーぞめ　〔赤染〕　赤色ニ染ムルコト。
あかーひも　紐ノ末ニ　和名抄十四ノ十四、染色具「赤莧　阿加比由　莧葉純紫」
あかーもがさ　ノ末ニ　日本紀略、長徳四年七月「天下衆庶煩疱瘡世俗号之赤疱瘡」（十数）栄花、峰々別「今年（長徳四年）例ノもがさニハアラデ、イト赤キ瘡ノコマカナル出デキテ、老イタル、若キ、上下ワカズ、コレヲ病ミノヽシリテ」同楚
王堂　別紙
あかーもん　赤門　俗ニ東京帝国大学ノ異名。加賀ノ前田家ノ奉守殿ノ朱塗ノ旧門存スルニナリ

⊕同、七年八月「土佐國前部懸野縣ニ」「帰家」（書言故事云）急請職「回取急之」欽明紀十三年十月「國行疫氣、民致天残」

あかーん（名）畿内辺ノ語、能クセズ。不可（イケヌ）ダメナリ。ドモナラン
あかーもの　〔贖物〕（贖ヒ物ノ意）身ノ災ヲ贖ヒ祓フ物。主上ノ御祓ニ奉ルヲ御贖物ト云ヒ略シテ御贖トモ云フ。贖児、形代ヲ是トス。延喜式「中宮贖物」内蔵寮式「毎月晦日、御贖」公事根源「神祇官献御贖物、是ハ毎月晦日奉ル。御衣ヲモ同ジク供ス」「称急ナリ。アカラ」略シテ
あからーさま　（名）〔倏忽〕〔暫〕（離ノ状ヲ云フ）開ル状ニテ瞬ク間ノ意ナルカ。あからしまかぜ（二）俄。五年二月
神武紀十三「倏忽之間出其不意則破之」雄略紀「嗔」イカリ　アカラサマニ　樹、従草中暴出逐人」⊕皇極紀（四年六月）「蘇我入鹿ノ誅ニ」努力努力急須」
（三）カリソメ。斬」ツカノマ。後拾遺「あからさまニ田舎ヘ下ル人ニ」枕草子、
二「児ノ、乳母ノタヾあからさまトテ往ヌルヲモトムルバ、トカク遊バシナグサメテ、疾ク来ト言ヒヤリタルニ」云云」栄花御抄「アカラサマニカヘリナムト」白地以ニ神宮並内侍所方ニ不以為御跡」

平家一、妓王妓女「千年萬年ト契レドモヽヤガテ、離ルヽ中モアリ白地(アカラサマ)ト思ヘドモナ
カラヘハツルコトモアリ」

あからさま 明狀 アラハニ。ツヽマズ。カクサズ。

あからし 未ニ 霊異記上ノ第九「父母懇惻哭悲」訓釋「懇
アカラシク」悩

あかしま（名）倏忽 あからしまノ畧(ラ)。雄略紀十年月「倏忽(アカラサマニ)帰家」肖
義抄「倏忽」

あかしまかぜ 暴風 あからしまかぜノ畧。

あかゆひきのいと 赤[illegible]糸

あかゆひき 赤引 春蠶(ハルコ)ノ赤ミテ帯ビタル[illegible]

あかひきのいと 赤引糸（明潔ノ意ナルベシ）生絲ノ練ラヌモノ。參河國ノ神戸ヨリ奉ルモノヲ用キルト定メラル 大神宮
ノ神衣(カンミソ)祭ニ織リテ供ス。持統紀六年閏五月「伊勢大神ニ奏ス其二神
郡（伊勢）赤引(アカヒキ)絲卅伍斤」神祇令義解ニ「孟夏神衣祭」註「神服
部等齋戒潔淨、以參河赤引神調糸ニ織作神衣」

あからひく 枕 赤四維引（赤ミテ麗シキモノヽ）日又ハ赤ミテ麗シキモノヽ枕
詞。萬葉四ノ三十四長歌「赤羅引日モ暮ルヽマデ」同十ノ二十五「朱羅引
敷妙ノ子ヲ数見(シバ)レバ人妻故ニ吾レ悪ヒヌベシ」同十ノ六「朱引(アカラヒク)膚モ觸
レズテ寝タレドモ」

あかも 赤裳 色ノ赤キ裳。萬葉十七ノ「紅ノ裳スソ引キ少女

「葦い」砂石集　連歌「覆所ノ雑仕モ赤裳ヲゾ着ル」大海先ノ売剝ム

キオケル中ニ居テ」

あからしがしば［明柏］（明遼九之）清浄ナル柏ノ葉。沛饌ヲ盛ルニ就キテ云フ。

萬葉二十ノ十二、天皇ノ御宴ノ歌「印南野ノ安可良我之波ハ時ハアレド君ヲ

吾ガ思フ時ハ實ナシ」　北野天神ノ霜月朝　北野天神ノ霜月（日ノ季ヲあから柏ト云フトイフ（和爾訓栞中篇）神供ニ就キテ云フナルベシ

あからたちばな［明橘］明　赤熟ルル橘ノ實。花　黄熟リ

萬葉十八ノ十一「月待チテ家ニハ行カム我ガ指セル安可良多知婆奈影ニ見

エツヽ」

全葉集、三、秋ノ大井河岸　浪高キ女代師ヨ岸ノ紅葉ニあからめナセソ

（三）腦見　又鯨瞻見　来ル　ヨリ轉白ニ　云ヒヨリ移リ

あからめ　外目（あからめ　傍見ノ韻）ワキメ。ヨソメ。八雲御抄「外目（アカラメ）」（名義抄「貴目（アカラメ）」）

攝津風土記「津ノ國ノ難波堀江ノ一ツ橋君渡ラザバ阿加羅米十爲

ソ」（綾威道別ニ）大和物語「あからめモセズ傍ニ居ケル」（出）腦見

腦見ナルヲ　あからめさすト云フ。景行紀、四十年十月、日本武尊顧謂、何禍ニ云ク何罪

云、不意之間、倏亡我子」續紀三十六、天平元年二月、親王内親王

蒙去ノ直命「安加良米佐須事ノ如ク（瞬間ニ）之ニ瞬ヒ

ヲ罠キテ蒙リマシヌ」轉ジテ俄ニ見失フ。私記「倏、安加良女須留保

此尓」華花、花山「我ガ里ノ君ハイヅコニあからめセサセタヘルゾ」

あがりうま［騰馬］（前脚ヲアゲテ躍リ上ガル馬）下ヨリ名アリ　跳馬　沛サ又ノ馬ノ騈馬

（盧裏記廿八ノ六）「馬沛寂艾シ春日大宮ニテ高クあがリテ走廻リケレバ」

（吾妻鏡五十二文永三年十月廿六「左京兆進騰馬」）著聞集十六「陸奥ノ葦毛

毛ノあがりまアリケリ云云（あがりまトモ知ラデ舞リアリキケルガニ）

あがり-おり　昇降（登リ下ルコト。梯子ノアガリオリ」）手綱ヲ強クヒカヘタリケルニ、ヤガテあがりテ投ゲケルニ、テンサカサニ落チテ」

~~あかりー~~

あかりしやうじ　明障子　〔紙ヲ透カシテ日光ノ明ヲ取ル故ノ名ナリ〕障子ノ一種、上下左右ニ框ヲカマヘ、中間ニ縦横ニ格ヲヒタシ、一面ニ紙ヲ貼リ光ヲ透ス。紙障子。紙隔。紙障。
然レドモ下部ニ腰板アルヲ腰障子ト云ヒ、其腰板ナキモノヲ今ハ専ラコレヲ障子トミ云フ。却テ明障子トモ云フ
△古事談、三「明障子ノ内ニ読経シテアリ」著聞集「あかり障子ノ破レヨリ
見レバ云云」△

あがり　彊　はるし　あがりみ

~~あがり-ふぢ　上藤~~

あかりまど　明窓（ヤマトマド）（むきまどの条ヲ見ヨ）（日光ノ明ヲ取ル窓）室中ノ屋根裏ニ開キタル窓、日光明ヲ取リ空ザマニ作レバ天窓トモ云フ。烟ヲ下ヨリ引キテ開ケ閉スレバ引窓トモ云フ。厨屋ニツケテ窓ノ烟ヲ漏ラシ採用トモス。

あかみ-ばしる　自四　赤味走　アカミガサス。アカバム（にがみばしるナドノ類ナリ）艶ガ三白ル

あから-をとめ　紅顔少女　顔ノ色、淡紅ヲ呈ハシテ美シキ少女（あからヲ見ヨ）古事記、中ノ七十二（應神）「阿迦良袁登賣」

あがり-だか　上高　商物ノ売レ高、金銭ノ高。（田ヨリ）刈入レタル稲ノ実収入。

あがり-かまち　上框　家ノ上リ口ノ床ノ框、多クハ商家ノ店先ノ大キナルニ云フ

あがり-まつ　上髷　（死髷ノ義、ぬかノ條ヲ見ヨ）遊里ノ語、遊女ガ湯シテ金銭ヲツカヒハタシタルコト
都「風俗鑑（延宝）」太鼓ナドニソノカサレ云云　メッタト遣ヒステ、程ナクあがり髷ナルナリ」（柳亭記、下）

あがり-ばな　上端　煎茶ノデバナ。

~~あかめ-め~~

あがり-ゆ　上湯　入浴ノ終リニ用ヰル湯

あかる　自四　（一）赤　赤クナル。アカバム。（果実ナド）（二）赤ラム。白フ。（顔色ナド）アカラム、淡紅タアラハシテ、ツヤヤカニ、紅顔ニ照ル。アカミバシル。神代紀、十三年九月「阿伽 倒孚少女」（あからをとめの条ヲ見ヨ）萬葉、十九ノ四十三
「島山ニ安可流橘宇受ニ指シ」同、四十五「島山ニ照レル橘ウズニサシ」

あかる・ルニル　自三　散（離散）「わかる、遠ざかる、あかれ（五）」[illegible]

別チ散ル、遠散ス。仁徳紀三十三年五月「遠精騎撃其左[illegible]」

[illegible]

手酔ヰ、蔵、あからム（明るノ自動）

あかる　自四　明（一）アカルクナル。（燈火ノあかるトアフモ是レナリ）枕草子、一「山際ハ

スコシあかりテ」

（二）心、晴ク。コヽロヨクナル。（快心ノ意）（心ノ晴ルヽヲ明カキヲ其自動ナリ）大嘗祭祝詞

「長御食ノ遠御食ト云々平ケク安ラケク聞食シテ豊明ニ明リマサム」（心ヲ

明晴晴ヲ明ルト云フ其自動ナリ）

（三）清クアルハミクアリ。廣瀬祭祝詞「御幣帛ハ御服ハ明妙、照妙」

あかゑぼし 赤烏帽子 人ノ物好キノ癖ニ「亭主ノ好キナ赤烏帽子」 以呂波短歌

~~宜~~ 松浦肥前守数寄者ニテ赤キ烏帽子ヲ用キタリ将軍ガ 義教

家ヲ自ラ侍ニ与ヘタルニ起レリトゾ（甘泉十八）

あけ 朱（朝ノ赭、あかはとろ、あけのころも（明衣）義）

(一)赤キコト。赤キ色。「あけニ染ム」論語ニ「悪紫之奪朱也」

(二)赤ク染マリタルコト 万三ノ十九「朝ノ赭船（ソホブネ）」後拾遺、二十、神祇「住吉ノ松ノ下枝（シヅエ）ニ神サビテ緑ニ見ユルあけノ玉垣」

△神代紀下「散去」私記「安加礼伊奴」

あかる・ルニ・ルレ 自下二 散「離散」。わかれ、遠ざかる。われ（五亡）他動ニあがつアリ 沖縄ニテモあかくトミフ

別レ散ル。「誰レ去ル」退散ス。△仁徳紀五十三年五月「連精騎撃其左、新羅一軍潰之（ニテアカレヌ）」仁賢紀五年六月「播磨国郡散亡（ワカレニゲヌ）」名義抄「分、アカル ワカレタリ」源、標澪標「（イトドサビシク云云）候フ人々モ、ヤウヤウあかれ行キナドシテ」

あき 厭 厭クコト。イヤニナルコト。「倦ムコトヲ」あきが来ル」古今、恋五「秋ガ袖ニマタキ時雨ノ降リヌルハ君ガ心ニあきヤキヌラム（秋ニ飽キ 秋ノ空ナド云フ語ヲ生ゼリ）

あきがら 明殻 (一)貝類ノ肉ノナキモノ (二)物ノ中ニ何モナキコト 空虚

あきぐち 秋口 秋ノ初

あきげ 秋毛 鹿ノ毛ノ秋ニ至リテ黄ク生ヒテ色ノ濃クナルモノ。

あきつ

あき‐つ 蜻蛉 ハ秋ノ蟲ノ下略、秋蟲中ニ特ニ群飛シテ目ニ著シク見ユレバ特ニ名トセルナル
（ゴッ溜ルベキナリ暫ク俗呼ニ従フ　夏蟲ニ對シテ）
ベシ大同類聚方五ノ五三「阿支豆牟之」名義抄「蛉蜻 アキムシ」仲子ハ仲之
子」奴ハ奴之子、河蝦ハ河之蝦ノ下略ナルガ如シ
虫蛉ノ名、とんぼうノ古名。神武紀三十一年ノ「蜻蛉」古事記下ノ三十四
「訓蜻蛉云阿岐豆」カゲロフ、今モ陸前陸中ニテハあきつ、あげつ 沖縄ニテあげづ。

あき‐つ‐かみ 現神 あきつみかみヲ見ヨ

あき‐つ‐み‐かみ 現津御神（倫ト異ナル意）世ニ現シクマシマス神ノ義 人
倫ト異ナル意 天皇ヲ稱ヘ申シ奉ル語、アキツカミ。アラヒトガミ。
續紀、一、文武天皇元年八月ノ詔「現御神ト大八島國所知天皇大命」万六ノ
四三「明津神吾ガ皇ノ」同三ノ十二「皇ハ神ニシマセバ」

（比古婆衣 十七）

あき‐さく 秋作 秋ノ作物、秋穫

あき‐さめ 秋雨 秋ノ雨
例、雅言集覧ヲサガス

あき‐し‐べ‐の‐はな 秋芝花ノ誤 擇草 浅茅甘ヤゼ草
葦ヲ摘ミ野ニ残リケリ花 コレ古キ物ナリ 異名分類抄（天明）ニあ
きしべノ誤カトアリ、へ、ヲ假名ト見誤リタルナラム。

あき‐し‐べ‐の‐はな 秋芝花 菊ノ異名、堀河院 抄○○「聖一國師（弘安三年寂）
云々あきしべの花ヲ北ノ籬ニウヱテノンドノシンドトレテ
南ノ山ヲ見ルノ意（文選）○○○ 陶淵明ノ詩ニテ「採菊東籬下悠然見南山」
葦埴草ハ「浅茅生モマジル草葉モ枯レニマデ野ニ残リケリあきしべの花」コレ古
キ物ニアリ」合類節用「菊アキシベ」

あき‐めくら 明盲 アキジヒ（其條ヲ併セ見ヨ） 言海ノ
○學バズシテ文字ヲ知ラヌモノ 王充論衡「人未學問曰朦」
青盲

四國九州

あきしやう 厭性 事ヲ為テ手キニ厭ク性質

あきづしま 秋津島ハ「づ」濁ルベキナリ出典ヲ見ヨ暫ク俗呼ニ従フ 秋之島ノ義、秋稲豊熟（イネノデキ）國ノ意 千五百ノ長五百秋ノ瑞穂國ト云フ是ナリ

（三）我ガ邦東北ノ陸奥國ヨリ西ハ長門國ニ至ル一大島ノ名。日本

神代紀上ノ四ニ 伊弉諾尊、伊弉冊尊、先ヅ淡路國ヲ生ミ、

次ニ大日本豊秋津島ヲ生ム。次ニ伊豫二名洲（四國）筑紫洲（九州）等ヲ生ミタマヒ

あきつしま 秋津島ハ「つ」濁ルベカナリ出典ヲ見ヨ暫ク俗呼ニ従フ。秋之洲（アキツシマ）

（一）義、秋稲豊熟（イネノデキ）國ノ意ト云フ。千五百秋ノ瑞穂國（古事記上ノ四八ニ秋）ト云ヘルモ是ナリ。

（二）我ガ邦ノ東北ハ陸奥國ヨリ西ハ長門國マデノ一大島ノ名。神代紀上ノ四ニ諸冊二尊、先ヅ淡路洲ヲ生ミタマヒ、廼生二大日本豊秋津洲。次ニ四國九州等ノ島々ヲ生ミタマヒキ

（三）後ニ四國九州ヲモ含ンデ名ル我大御國ノ総称トナレリ。又、秋津國。古事記序「神倭天皇（神武）経歴于秋津島」 夫木抄、三十「島ノ外モ波治マレルあきつ國ニ道アル君ハ恵ミ普ク知ル」

（三）又日本（ヤマト）ト云フガ大御國ノ総称トナリシヨリ日本ニ冠ラセテ「秋津島日本」ト言ヒ習ヒ又畿内ノ大和國ニモ冠ラセテ言フ語トナレリ。仁徳紀五十年三月

あきーしやう　感性　事ヲ為テチキニ感ク性質

あきづーしま　秋津島　づハ濁ル（キナリ出典ヲ見ヨ）ハ秋之島ノ義、秋稲豊熟國ノ意

百ノ長五百秋ノ瑞穂國ト云フ是ナリ　千五

（一）我ガ邦ノ東北ノ陸奥國ヨリ西ハ長門國ニ至ル一大島ノ名。後ニ大日本

神代紀上ノ四ニ　伊弉諾尊、伊弉冊尊、先ヅ淡路國ヲ生ミ

「次ニ生ニ大日本豊秋津島」次ニ伊豫二名洲（四國）筑紫洲（九州）等ヲ生ミタマヒ

（二）後ニ又日本ト云フ大御國ノ総名トナリシヨリ日本ニ冠ラス、又畿内ノ大和國ニモ冠ラスル語トナリ

秋津島日本ト言ヒ習ヒ　又　秋津國

仁徳紀五十年三月「阿晉豆彌……倭ノ國ニ雁子産ト汝

萬葉ノ七、舒明天皇ノ……「蜻島八間跡ノ國ハ」同十三ノ三十一「秋津島倭

同二十ノ五十「安吉豆之萬ノ國ノ標尊」長歌　祝萬歳（共ニ大和國ナリ）

10

四國九州ノ島々ヲモ合ハセタル我大御國ノ総名トナリ（古事記）又、秋津國

記序「神倭天皇（神武）経歴ニ秋津島ニ

夫木抄三十「島ノ外モ波治マレリ秋津人ニ道アル君ガ恵ミニヨゾ知ル」

此書後撰ニアルカ、アラバ後撰トアラタメル

あきーつしま　秋津島（一）……

義、秋稲豊熟國ノ意ト云フ（古事記上ノ四十八ニ）五百秋ノ瑞穂國トモ云ヘルモ是ナリ

（一）我ガ邦ノ東北ハ陸奥國ヨリ西ハ長門國マデノ一大島ノ名。神代紀上ノ四ニ

諾冊二尊、先ヅ淡路洲ヲ生ミタマヒ「廼生大日本豊秋津洲」次ニ四國九州

等ノ島々ヲ生ミタマヒキトアリ

（二）後ニ四國九州ヲモ合ハセタル我大御國ノ総称トナレリ。又、秋津國。古事

記序「神倭天皇（神武）経歴于秋津島」夫木抄三十「島ノ外モ波

治マレル秋津洲ニ道アル君ハ恵ミニゾ知ル」

（三）又日本ト云フガ大御國ノ総称トナリシヨリ日本ノ冠ラセテ「秋津島日本」ト

言ヒ習ヒ又畿内ノ大和國ニモ冠ラセテ言フ語トナレリ。仁徳紀五十年三月

「阿耆豆辭摩夜摩苔等（日本紀）國ニ雁子産ト汝ハ聞カスヤ」萬葉

一ノ七。舒明天皇ノ大御歌「秋津島倭ノ國」同十三ノ三十「蜻蛉島

八間跡ノ國」同十三ノ三十二「秋津島倭ヲ過ギテ」同二十ノ五十「安

耆豆之萬夜萬登ノ國ノ橿原ノ」（三首共ニ大和國ナリ）

~~島ノ稱ハ[illegible]~~ 地勢ヲ

秋津島ノ語原ヲ神武紀ニ蜻蛉ノ臀呫セル如シト貢ヘルニ起ルト云ヒ雄略紀ニ（記者ノ文ナリ）

蜻蛉ノ功アリシニ因テ起ルト云フ共ニ虫名ニ因ル諛辭ニテ（諸風土記中ノ諛辭ノ如シ）其地名ニ二樣ノ語原アル

ベキ理ナシ孝安天皇ノ宮號ノ秋津島ハ單ニ一小地名ト見ル

あきつば　秋葉　秋ノ木ノ葉ノモミヂタル也ノ　万十ノ五八「秋都葉ニ」

あきつは　蜻蛉羽　蜻蛉ノ羽。透キトホリテ紗ノ如クナレバ羅ノ衣ナドニ

譬ヘテ云フ　万三ノ三十七「秋津羽ノ袖振ル妹」

あぎとふ　自四　隤還

（二）（腭ヲ動カシテ）カタコトニ物言フ（小兒ノ）（腭ヲ動カシテ言問フ意）（腭ノ活用、貝、歌ヲウタフ、鰓ヲウナフノ例或ハ）續後紀十九、嘉祥二年三月、長歌「嬰兒ノ喉語ニ」

垂仁紀「誉津別皇子、年既三十、…常不言云云、仰觀鵠曰是何物

耶、天皇則知皇子見鵠得言、而喜之」名義抄　喉、小兒笑、アギトフ（あぎとふヲ見ヨ）

（三）水ノ上ニ浮出テ口ヲ開閉ス（魚ノ）喰喝（名義抄「喰喝」アギトフ）

神武紀ノ十「魚皆浮出隨水噞喁」仲哀紀二年「海鯽魚傾浮如醉」

蜻蛉日記中「アナ、噞喁ヤトテ手ヲ搔キ面ヲ振リシコラノ人ノあぎとふヤウニスレバイト

セムカタナク、ヲカシク見エ

〔あぎとふ児ノ界カナ児ヲさきおい(幼)ナドト也云フ〕

あぎとふ（名）嬰孩 ミドリコ、ヲサナゴ、和名抄一本「嬰孩、阿岐度布」名義抄、夛郎
嬰孩 アギレフ

あぎとひ（名）孩語 アギトフコト、嬰孩ノカタコト。
古事記中ノ三十八、本牟智和気ノ御子ノ事ニ「高往鵠之音始為阿藝登比」（あぎとふヲ見ヨ）

あきの-ふた（名）〔八ゐたりヲ見ヨ〕本草和名下ノ三十四「甲香、阿岐乃布多」
〔寄蝉ノ蓋〕

あき-の-みや〔国〕秋宮〔長秋宮ノ文字ノ通〕、拾芥抄、中宮、長秋宮
皇后宮ノ別名。
俊成家集、「再ビ皇太后大夫ニ任セラレし時「雲ノ上ニ遠ニ照ニ月影ヲ秋の宮ニテ見ルゾウレシキ」

10

あきんど-ぶね 商人船 アキウドブネ、商船ニ同ジ

あき-なすび 秋茄子 今、アキナス
「秋なすび醅ノ糟ニ漬ケマゼテよめニハクレジ棚ニ置クトモ」此歌夫木抄ニアリト傳フレドモ
同抄ニハ見エズ。本草ニ「茄性寒ニ利、多食必腹痛下利、女子能傷子宮也」トアルニ因リ娌嫁ノ後ハ子ヲ愿フナリトモ云ヒ
△或ハ秋茄ハ種少ケレバ子種ナシトヲ忌ミテノ事ナリトモ云フ也
（此歌ノよめヲ娵ト解シテ「秋なすびよめニ喰ハスナ」ト云フ諺アリ）よめヲ娵ト解シテ

あき-なすび 秋茄 茄ノ一種、秋ノ末ニ實ヲ結ブモノ、種子少シ
秋茄ハ味美ナレバ姑ノ娵ヲ憎ミテ云フ意ニテ詠メル俳諧狂歌アリ、望一後千句（杉田句当望一、寛永七年死年八十三）「残レルモハヤ末成ノ秋茄子」
憎マレニタル娵ガ姑ト毛吹草（正保）ニ鑑ナラバ食ニセモセムカ秋茄子」或云よめトハ鼠ノコトナリト。

あきたは 草ノ名、八丈島ノ産 シラベル

あき-の-ふたよ 秋二夜 陰暦九月十三夜ノ月ニ云フ語 例入ル

あき－びより　秋日和　秋ノ澄ミテ晴天ノ数日未ダ晴ルルコト。我ガ邦ノ気候ハ秋ニ入リテ殊ニ晴レ」天空ノ澄ミワタルナリ。十月ノ小春トモ云フ、アキバレ。　秋晴

あき－ばれ　「秋晴」　秋日和ノ快晴。

あきらむ　ルルムレ　他下二　「明」「諦」（前條ヲ参照）（二）明カニ見究ム。理由ヲ究メ知ル　詳カニ

皇極紀　十三年「臣不知所云（アキラカタマヘ）審察ニ」天武紀下　十一年「天神地祇及天皇証（アキラメタマヘ）也」（上　三年「国令（アキラカ）ニ治察ニ同」）

あきらむ　ルルムレ　他下二　「明」　（一）思ヒヲ明ラカニ晴ラス（二）明ラカニ見ル、見晴ラス

遷宮崇神奉幣「際限（ミテタラ）シニ備ヘマツリテ見明物ト鏡、観ル物ト玉」　万十九ノ三十九「秋夜（サヤケナレ）ド毎ニ見シ明良牟流　今日ノ貴サ」

（三）心ヲ晴ス　見晴ラス、思ヒヲ晴ラス、侍宴応詔歌

万十八ノ四〇「心ヲ安吉良米タマヒ」

万十九ノ二十「繁キ思ヒヲ見明良米之豊（ヤ）」ニト　漢・四十蔵五「数カレヌ心ノ中ニあきらむバカリ」且ハ思ヒ又アハレテモサマサマニ「カタラヒタマフ」

万二十ノ二十五「山川ヲ見ツツ女伎良米タマヒ」

あきらむ　ルルムレ　自下二　「断念」（次々前條ノ語ノ意）思ヒテ絶ツ　思ヒキル、　絶念

あきらめ　「断念」

(二)(三)
前 後

あきれ、けつ　自下ニ　呆果　あきれかへるニ同ジ

あく（接頭）悪　(一)(三)　荒キ。猛キ。「悪源太義平」「悪七兵衛景清」「悪四郎實平」「悪獣毒蛇」

用（鬼武者、鬼柴田ナド同ジ）　雄略紀二年十月ノ條ニ「天皇以

心為師、誤殺人衆、天下誹謗言大悪天皇也」ハナハダアシクマシマス　ハナハダ

トアルモ「アラ」荒ミ「荒ミ」ナリ　又暴逆ヲ止テタル人ニモ冠

ラシム「宇治悪左府頼長」「悪禅師公暁」(二)　一悪シキ、拙キ、醜キ、「悪意」

「悪七兵衛景清」（平治物語）　「悪臭」「悪筆」「悪女」

あく　幄　(二)アゲバリ　(三)幄舎ノ略。

あく　接頭　悪

(一)　悪シキ。拙キ。醜キ。「悪意」「悪臭」「悪筆」「悪女」

(三)　気ノ荒キ。猛キ。此語、「あし宰相」ナド云ヒシヲ音読シタルモノハ其條

ヲ見ヨ　「悪左府頼長」「悪禅師公暁」「悪源太義平」「悪七兵衛景清

清」（鬼武者、鬼柴田ナド同趣ナリ）「悪獣毒蛇」

あし（接頭）悪　荒キ。強キ。

あしさいしやう（悪宰相）

(用)　心ノ荒キ。アラアラシキ。（宰相ノ意）　続世継、五、関白師通ノ子宰相家政ノ事ヲ

宰相ノ御心バヘノきはだかニオハシケルニヤ　三條ノあし宰相トゾ人ハ申シヽ

」同巻、古里の花の巻ニ　師通ノ弟ノ澄真ヲ「あし法眼」ト呼ブ（尊卑

分職ニ悪宰相、悪法眼トアリ）此邪音讀セシ宋ニ悪ノ法、悪僧太

悪左府頼長ナドモあし左府ナラムカ 悪源太ナドニ首漢ス雄異化（接頭語 悪ノ性至見ユ）

二年十月ノ條ニ「天皇以悪為師 誤殺人衆、天下誹謗言大悪天

皇也」トアルモ 荒荒シクマシマス意ナリ

アコカん

あく-いう 悪友 交リテ善カラヌ友

あくがる 自下二 浮蕩（在処離ル）わかざ、やくざ（若手）

〔在処離ル〕ノ要轉ト云（かうだと、かざと（假言）わかざい、わくざい（若る）

（二）居ル處ヲハナレテ浮カレ出ヅ 貫之集「思ヒアマリ恋シキ時ハ宿離レテ

あくがれヌベキコ、チコソスレ」 拾遺 ○○ 神祇「物思ヘバ澤ノ螢モ我ガ身ヨリ

あくがれ出ヅル魂カトゾ見ル」（三）離ル 源、槙柱「御中モあくがれテ程歴

ニケレバ」 心落ち沙汰 ○○ 「御中ハタダあくがれニあくがる」（三）心落チ着カズシテ浮カル 魂、身ニソハズ

憧憬 名義抄「憧、アクガル」 説文「憧、意不定也」 源、野分「今日

カカル空ノケシキニ因リ風ノサキニあくがれアリキタマフ」 源、若紫「カカル折リダニ

心モあくがれ惑ヒテ」

あくかく　悪客　酒飲ム上戸ヨリ下戸ヲ罵リテ云フ語、増補下学集下、態藝「唐人、元次山呼不飲者謂之悪客也」

あく　クルクレ也、東下二

漘　滑ム二同ジ

醨　(三)酒ノ、シムハ、漉スノ（酒ヲ）和名抄、十六ノ十三「醨、醨

醨　謂レ清クセズシテ滑ヲ清酒ニ雜ヘ

佐以之太元、俗云、阿久、下ノ酒也」　月事ノ名義抄、醨、アクサケアク」

(三)今、水ヲ転ジテ、酒樽外ノ器ニ注ギ入ルルヲあけると云フ

あくし　悪詩　作リカタノ拙キ詩

あくじつ　悪実　牛蒡ノ実、薬用ノ名ナリ

あくしば　灰汁柴　ひさかき（柃）ヲ云

あくすい　明水（明水ノ訛、用水ニ望ス）田ノ水ノ用ナキ時流シヤルモノ

アケレタ
アレク

カキツケバナ　ムカコ

カキツ　ハタ　ムコ

ム

あくざう　悪摺　人ニ失敗又ハ淫事ナド事件アリシ時、傍ノ者、其趣ヲ戯絵ニカキテ板行シテ、友人ノ間ニ配リテ嘲リ合フモノ、人ヲ鍋ニ

あくた　芥　末ニ　乃七ノ二十七「カ黒キ髪ニ飽田（アクタ）ニ付クモ」名義抄「糞、アクタ」

「クソ」字ヲ抄「芥、アクタ」

あくたもくた（名）芥芥屑（アクタモクタ）ニ轉ナルベシトモ云フ、俗ニ種々ザマナル雑物ノ（「あくたもくた」ブチヤケル）言ヲ云フ「あく

たもくた言ヒ散ラス」音便ニ因リテ悪對ニ移シテ　あくたいもくたいトモ云ヒ有象

有象ニ言セテ　あくぞうもくぞうトモ云フ

あくぞうもくぞう（名）　あくたもくたヲ見ヨ

あくたふ　林叶　糞堆（芥生ノ義（園生、芝生））芥ヲ棄テオクトコロ、チリヅカ、ゴミタメ　和名抄一ノ七「糞堆、阿久太布」

あくたれぐち　アクタレ、名ノ　モノイヒノ　悪口、悪對。（悪言）

あくたいもくたい　あくたもくたヲ見ヨ

あくたち　淋

あくち　（開口ノ義）齶唇（アクチ）トモ云フ説アリ　連母ノ着キ入ル口、

髙館草子「無慙ノ採足袋銀ニテ縁ヲツタヒ開口（アクチ）ニ踊込（フミゴ）ウクリ」

あくどし　形一（あハ発語、あ讒シノ義（あ灑シ）（苦遍））（一）クダクダシ、クドクドシ。（囉々）

空穂、蔵開中、四七「北ノ方、ナドカ、物モ臆バテ、アラク乱シテ、カク、あくどく言ハレタマフ」

（三）程過ギテ嫌ハシ、シツコシ、ごてノ澤キニ過ギ、彩色ノ濃キニ過グルナドニ云フ　濃厚

煩褥濃厚

あくけうし　形一　無饜足（一）飽キ足ラズ、不満足ナリ。（不十分ナリ）慊

散木集、下「振リ出デ、言ヒまあツレド、紅ノあくけなくテキカ（リツルカナ）」（紅染ニ灰汁気ナシニ言ヒカケタリ）（ハカナシ）。

（三）独ゴテ、結合セナシ也（音便ニ　あけなトモ云フ）習レテ我ロ忘ルンヲ「アツケニ取ラル」ト云ヒ（茫然自失）

口アキタル貌ニ状ニ言ヒ寄セテあんけト云フ。史記抄（文明）十七ノ十三「喝々トハ
臭ノ毒ニ酔ウテ口ヲ開テあんけトシテ居ル[illegible]ナリ」

あくーぬけ　あかぬけノ訛。

あくまーはらひ　悪魔払　悪魔ヲ除クコト。悪魔払ノ祈祷。

あくぶ・ぶ・べ・ぶ・ど　自動四　欠（欠伸ヲ活用セシメシ語ナラム　あくむ（倦）モ厭む、まぐ
けひ（婚）ニ見けひ左べし」欠ヲス。名義抄「鳴、アクブ」紫花楚王夢「イ
タウあそばセタマヒテ」著聞、五〇〇〇「只今沸瀾ヲ受ケタマヒテあくび
テ、ケシキカハリテ見エタマフ」

あぐら

あーぐら　胡座（上座ノ略。むさ（婿）モ向子ノ略）　呉座
（三、上古たい）家ノ内ノ板敷ノ上ニ高ク設ケタル座、寝処[illegible]其他ノ調ト誤リアルトオボシ」古事記上ノ五十一「天
若日子寝胡床ニ」（書紀下ノ十三（雄略）「立ニ大御呉床而坐其ノ御呉床」
（三）後ニ[illegible]禅御製今集ニ其大御歌ニ「阿具良[illegible]
木ニテ作リテ腰ヲカケル用トシタル具。[illegible]椅子[illegible]
大キク背ニ倚リカカリ立タリ[illegible]帳荒[illegible]「呉床一具、漆塗、長二尺三寸」
和名抄十七坐臥具ニ「風俗通云霊帝好胡床、阿久良」

あぐら　趺坐（踞坐）（胡床居ノ略。其[illegible]スル義、前条ヲ見ヨ）足組ミテ坐スルコト、
即チ両ノ脛ヲ曲ゲテおケチガヘ膝ヲ地ニツケルナリ。此ノ如クスルヲあぐらヲ掻ク。
（文六足組　文六居）
蹲ル陸ニ居ル、デタラウラ組ムト云フ

あぐら【胡床】アナナヒ、アシユヒ、アシハ、（足座ノ義）竹取、大炊寮ノ飯炊グ屋ノ棟ニ「つま（?）実ナル男ドモヲ率テあぐらヲ結ヒテ上ゲテウカヾハセム」

あぐらあみ【揚網】【纒網】網ノ一種、廣ク魚群ヲ包ミ泛子（ウケ）ヲ付ケ手繰リ寄セテ捕ルモノ、鰯・秋刀魚ニ用ヰル、数人ニテ
コレニ用ヰル舟ヲあぐら舟ト云フ 安房辺ニテ大サ敷一盃ノ魚ヲ一トあぐらト云

あくらつ【悪辣】甚シク辛辣ナルコト、極メテ惨キコト

あくりやう 悪霊

あくるあした 明朝 あくるあさに同じ 崇神紀 明旦（アクルアシタ）

あくるつき 明月 前月過キテ其次ノ月、翌月、来月 ●クルツキ

緋ノ衣（アケゴロモ） あけ着

五位ノ官人ノ着ル衣、後撰十五、鎮一 藤原ノさねきが蔵人ヨリ位階賜リテ明日殿上マカリオリナムトシケル夜

あけ【緋】（一）「うばたまノ今宵バカリゾあけごろもアケナバ人ヲヨソニコソ見メ」同同

（二）【緋（朱ノ義）】緋ノ色 天智紀六年閏十一月「緋二十四足、紺布二十四端」孝徳紀大化三年十二月「服色並用真緋（アケ）」

（三）五位朝服ノ色、緋色ナリ 後撰十五 小野好古云ニ「四位ニ必ズマカリナルベカリケルヲ「タマクシゲ二年逢ハヌ君ガ身ヲあけナガラヤハアラムト思ヒシ」續世継ノ「タダ人ノ五位、あけの衣ニ穴ハミク」

あげうた【挙歌】【上歌】内侍所ノ御神楽ニ神楽歌ヲ歌フニ、聲ヲ上グルヲあげト云ヒ、下グルヲおろしト云フ 本方末方（もと本ノ條ヲ見ヨ）共ニあげニ歌フヲ諸挙ト云ヒ、一方ハあげニ一方ハおろしニ合唱スルヲ片おろし ●又ハ片折、片折トモ云ヒ、又歌ノ上ノ句ヲ諸挙ニシテ下ノ句ヲ末方ニテおろしニ歌フヲ末片折トモ云ヒ、下ノ句ヲ末方ニテあげニ歌フヲ末諸挙ト云フ（神楽入綾ノ中）

神代紀 下ノ三十四「此時歌二首 号曰挙歌」（アゲウタ）

古事記 允恭「（共ニ楽府ニテ歌フニツキテ云フ）」

二十、二十二、軽太子ノ流 歌ニ表振（ヒナブリ）ノ上歌、片下（アゲウタ、カタオロシ）トス

建武年中行事「あげうた歌」大木三十二「小庭深キ貴船（地名）ノ奥ノ松風ニ」

琴ガ鼓ノかたおろしナル」加茂臨時祭

あげうま【上馬】末ニ 吾妻鏡 八、文治四年二月二十八日、鶴岡宮臨時祭、「流鏑馬三騎射之、馬長三騎馬場ニ（馬長ガ上馬ニ乗リシナリ）渡ニ」

上條九代次

あげ・おろし 【上下】(一) 上グルヿト卸スヿ、アゲサゲ「荷物ノ……」「書ノ……」(二) 褒貶スル(褒貶スト) 誹ト褒貶「人物ノ……」

あげ・かがひ 挙鈎 かきかがひノ條ヲ見ヨ

あげ・かひ 揚貝(あげ貝、あげ貝ト同ジ、法螺ノ類) 軍勢引揚ケノ命令ニ吹出ス陣貝ノ声(本陣ニテ)

あげ・さげ 【上下】(一) 上グルヿト下グルヿト。アゲオロシ。(二) 高クスルヿト、安クスルヿト(物ノ價ニ) (四) 請出スト預ケ納ルト(質物ニ) (三) 潮ノ満ルト干ルト引去ルト「あげ潮、さげ潮」

あげ・た 【高田】(上田ノ轉、あかまし、あげまし) 高キ地ニアル水田、低キ地ナルヲ深田ト云ス、暑レテあげト云
古事記上ノ卅九「其兄、作下田者、汝命營高田、其兄作高田者、汝命營下田、為然者、吾掌水故、三年之間、必其兄貧窮」紀神代紀下ノ三十二「兄作高田者、汝可作深田」万十二ノ十七「水ヲ多ニ、上ニ種蒔キ稗ヲ多ミ……云云」

あげく 挙句 末ニ 史記抄(文明)十六ノ三十四「暴富ニナリヌガあげく ノハテヲ見ヨヤ」

あげ・くび 上頸 くびかみノ條ヲ見ヨ

あげ・えん 揚椽 揚椽側ノ釣リアグベク作リ成セノ商家ノ店見世先ナドニ設ク

あげ・ぐれ 末ニ 浮若葉、下○○ 南ノ戸ノ昨夜入リシガ、マダアキナガラアルニ、マダあげぐれノホドナル(ヘシ)、ホノカニ見タテマツシム云云」

あげ・つち・もん 【上土門】 門ノ屋根ノ上ヲ少シヒラメラ土ヲ塗リ其上ヲ石灰ニテ塗リタルモノ、後ニハ土ヲアゲズ一種ノ造方トナル。士庶ハ妄ニ建ツルコト能ハザリシモノトオボシ ノ名
枕草子
庭訓往来、三月「平門、上土門」
應仁記○○「武衛、細川、畠山、山名、一色、六角ハ上土門ヲゾ建テニケル」
海人藻芥○○「武士ノ家ニ立ヅ 上土門ヲ立ツル輩少々有之

あげつらふ 紀四 論（アゲツラフハ言擧、つらふハ其働ヲ具ヘル）（一）互ニ理非ヲ辯ヘ合フ。論ズ。
推古紀十二年正月憲法十七「大事不可獨斷、必與衆宜論」
（二）理非ヲ言ヒ立ツル。継体紀元年正月「勿論貴賤但重其心」言議
あげーのーたまがき 朱玉垣 ノ條ヲ見ヨ
あげーつぼ 上土壺（博奕ノ謎ナルベシ）俗ニ欺カルヽコト、タバカラレタルコト。ソレニ出會ヒタルヲ「あげつぼヲ食フ」トイフ
あげひろぐ クルクレケ 紀下二 明廣 廣ハク明クル、開キテ内ヲアラハニス。

あげーまき 総角（髪ヲ結ブヲあぐトイフ 結ゲ巻クノ意ナルベシ）（総角ハ角ノ如ク結フル意ニカ）
（一）又、アゲビンヅラ。少年男子ノ髪風。全髪ヲ中央ヨリ両分シ頭上ニテ両(曲)輪ヲ作レルモノ。双角ノ如シ因テ総角、角髪、角子等ノ字ヲ充テ用ヰル後ニハ少女ニモ結ハル、角まき、（角むすび）唐輪髷、唐子髷、児髷ナドイフモ是レナリ
景行紀二十八年有「我子小碓王、昔熊襲叛之日、未及総角、久煩征
（付一）崇峻即位前紀「古俗、年少児、年十五六間、束髪於額、十七（八間、分為角子」（御年十六ナリ）天治字鏡三ノ二十四「髫、角非（小ノ誤）束髪、阿介万支」
（三）総角ニ髪ヲ結ヒタル少年。和名抄二ノ廿三、人倫部「総角 阿介万支 葛岐」
神楽歌、総角「安介万支ヲ早稲田ニヤリテハチ思フト」

[illegible]

あげまき　揚巻（あげまきむすびノ略ナルベシ）（両輪ノ形総角（アゲマキ）ノ如シ）

（二）紐ノ結ビ方ノ名。両端ヲ総ヲ成セル紐ヲ以テ左右ニ輪ヲナシ中ヲいした、ツノムスビ、みニ結ベルモノ。文箱、御簾其外諸具ノ飾トシ又鎧ノ逆板ノ中央ニテ項ノ下ニ着（守む）クルモアリ

源、総角「あげまきニ長キ契ヲ結ビコメ同じ心ニ寄リモアハナム」（名香ノ緒ヲ結ヒ、レイリ）

（三）以下 旧版ノ（三）（四）

あげもの　揚物（食物ヲ揚油（アブラ）ニテあげタルノ。揚（食物ヲソノマヽニあげ（ザ）ヲ素（ス）ニテあげ又ハ水ニ溶キタルうどんこヲ塗ルテあげ、るヲつけあげトモヒ、ソノ（うどんこヲ附ケ）トモフ

（あげ）蔬菜ナルヲ精進あげトヒ魚ナルヲてんぷらトモフ（京坂ニテハてんぷらヲつけあげトモフ）、沖縄ニテハ魚肉獣肉蔬菜等

豚ノ脂ニテあげタルヲ総ジテてんぷらトモフ

あげーまき
総角（髪ヲ結フツあげ上ヲ結ケ巻リヨナルノ）又、あげまきトモ。少年男子ノ髪ノ風、全髪ヲ中央ヨリ両分シ頭上
ニテ両端ヲ作ル双角ノ如シ 因テ総角、角髪、角子ノ字ヲモ書ク 後ニハ少女ニモ
用タ。角まき、唐輪髷、唐子髷、児髷ナド共ニ云フモ同じ
天治字鏡 三ノ二十四 総ハ「髪、角非（[illegible]ノ語）束髪、阿介万支」和名抄十三「総角 [illegible]」
景行紀二十八年十月「我子小碓王、昔無弐之[illegible]二日 ○古ク総角ノ[illegible]
（三）総角ニ結ヒ合ハス年 和名抄十三「総角[illegible]」「我ガ方支ヲ早稲田ニ[illegible]ヲ思フト」（年十六ナリ）
催馬楽総角「阿介万支ヤ[illegible]ヒキ[illegible]マロヒアヒニケリ」
和名抄十三人倫部「総角 阿介万支[illegible]」
あげまき 揚巻（両鐶形総角ノ如ト）
[illegible]段結ビ比 古俗年少児年十五六ノ間、束髪於頂上 七八間合於額[illegible]

あげおもて
あげおむ 揚屋ヘ遊里ニテ遊女ヲ揚屋ヨリ招カレテ其客ヲ待ツ、揚屋ヘ通行（上等ナル）
[illegible]ト、江戸新吉原ニテハ揚屋盛装徒歩ニテ行クコレヲ
道中トモ云フ其歩行[illegible]仕形ニ[illegible]八文字[illegible]（享保以後[illegible]）道中ナド称シテコレアリ
[illegible]盛装ノ往ヘ[illegible]カク[illegible]ノ[illegible]
[illegible]下駄ニテ徒歩ス[illegible]揚屋ニ至ルヲ[illegible]引手[illegible]ナル
あげびーづる 通草 あけびかづらニ同じ。
あげーぞこ 上畳 あげだたみニ同じ
（五）召捕リあげテ牢ニ入ル、投獄
（七）遊女ヲ呼ビ[illegible]江口神崎ナドノ遊女ノ舟ニ[illegible]陸ニ呼ビあげテ
遊ビシニ起レル語ナルベシ 揚屋揚代ナド云フ語モ是レナリ 新ビア女藝者ヲ呼

裏ニアリ

例ノ如ク位ニ

あげまき

総角（髪ヲ結ヒテ揚ゲ巻クノ意ナルべし）又、あげまきがみ。少年男子ノ髪ノ風、全髪ヲ中央ヨリ両分シ頭上

ニテ両髻ヲ作ル双角ノ如シ因テ総角、角髪、角子ノ字ヲモ書ク、後ニハ少女ニモ

用ヰ、角まき、唐輪、唐子髷、児髷ナド未ダ云フモ是ナリ

天治字鏡 十二ノ二十四 丱鬟、角非（丱ノ誤）束髪、阿介万支 和名抄十三 総角、向

景行紀 二十八年十月「我子小碓王、昔熊襲ヲ殺ス日ハ未ダ年十六ナリ」○未弱 総角大隅

（三）総角ニ結ヒタル少年 和名抄 総角侍「阿介万支ヤ和加（?）」ヤスルニ未成人ナルマロトナリ（年十六ナリ）

和名抄十三人倫部「総角 阿介万支 早稲田ニヤリシヲ思フ」

あげまき 揚巻（両輪形 総角ノ如シ）

揚女郎 ... 古俗 年少児 ... 間 束髪 ... 十七八間 合 ... 節子

あげばり 幄 ひらばりノ條ヲ見ヨ

あけび 通草 あけびかつらノ畧。

あけびかづら 本草和名上二十九「通草、阿介比加都良」（和名抄同じ）

字鏡 五十三「艸冠ニ開ノ字ヲ「山女也、阿介比」 開ハ女陰ナリ 實裂ケテ女

陰ニ似タリ

あけびづる 通草 あけびかづらニ同じ。

あげだたみ 上疊 あげたたみニ同じ

（五）召捕リあげテ牢ニ入ル、投獄

（七）遊女ヲ喚ビ(呼ビ)江口神崎ナドノ遊女ノ舟ヲ（?）ワタラヒセシヲ陸ニ呼ビあげテ

遊ビシニ起レル語ナルべし 揚屋 揚代ナド云フ語モ是レナリ 新ビテ女藝者ヲ呼

裏ニアリ

あげまき　総角（髪ヲ結ヒアゲル意ニ、結ケ巻ノ意ナルベシ）又、揚巻トモ書ク。少年男子ノ髪風、全髪ヲ中央ヨリ両分シ頭上ニテ両輪ヲ作ル双角ノ如シ、因テ総角、角髪、角子ノ字ヲモ書ク。後ニハ少女ニモ
（月）…角まき、唐輪髷、唐子髷、児髷ナドモ亦之ヲ云ヒ是レナリ
天治字鏡 三十二四 丱（総）髪、角（丱）非（丱ノ誤）束髪、阿介万支 和名抄十三「総角」
崇行化 三十六年十月「我子小碓王昔総角時」○今考総角ノ「…」

あげやく

あげやうしよ　[illegible]

あげらのいは　（国）草　あげらもろこし

[illegible]

字鏡五十三「麗、闘（間）ニ…」あげり

あげらもろこし　其　本草綱目ニ「…」（間ニ生ゼル…）

あげらもろこし（国）草　あげらもろこしノ略

あげらこなし　…ノ略

あげる　ケルケレ　他下一　上

（一）吐ク　タグッヘドック　嘔吐

（二）寺小屋学校ノ教育ニ就カス、入学セシム　就学　「子供ヲ学校へあげる」

（三）学ビヲル　習フ　「読本ノ一ノ巻ヲあげた」

東行話説（一霊櫓）「我が娘どもの筋業琴を習とし出、夜のふき」

ノ顔ヲあげテ後、岡崎女郎衆ト謡ヒ云ヒ」

（四）古刀ノ刃ヲ軽クス（刀ノ心ヲ切リあげるナリ）

（五）召捕リあげテ牢ヘ入ル、投獄

（六七）遊女ヲ呼ビ（喚）江口神崎ナドノ遊女ノ舟ヲ呼ビあげテ陸ニ呼ビあげテ

遊ビシニ起レル語ナルベシ　揚屋　揚代ナドモ之ヨリ出デシ語ニテ是レナリ　転ジテ女芸者ヲ呼

（三）芸妓　例別紙ニ

裏ニアリ

（八）（七）油ニテ煮ル。揚油。揚物。‖油揚ナド云フモ是レナリ 油浴

あげわたす 揚渡 アケハナス。残ラズ明クル。

掀衣一「タシカニ見ヨト言ヘバ半蔀あげわたして人々アマタ見エハベリツ」

あげを 上緒（髪結ノ緒ノ意）（一）上古ノかがふり（冠）ニテ羅ノ袋ヲ被リ髻ヲ包ミ其根ヲ結ビ緒 纓

（三）後ニハ巾子ノ根ノ前ニ（ツケテ）維纓ヲ結セタル如キモノノ名、

あげる 他、下一 上（三）あぐノ口語

（三）

六七 遊女ヲ呼ブ 揚屋 揚代ニ普通ナ[illegible] 女藝者

江戸初期ナド遊女ヲ舟ニノセテセシヲ呼ビ[illegible]遊ビシノ起ルナルベシ

二 入学させる 寺小屋学校ニ入ニシム

四 の古カノ身ヲ飾ル（カミヲセルナリ）

三 終ろ 終ルスムトゲ [illegible] 荷本ノ巻テ ‖

一 ○吐く ヌクヘドツク 嘔吐‖

油ニ煮ル 油浴 アブアブラ アゲアブラアゲ

五 膵[illegible]（[illegible]）

五 投獄 召上ゲテ牢ニ入ル、

○料理室ニテ血ナド出ル

あせる 注 醜

あせる ケル、ケ、ヒ 他下一「淫ス(醜ク)ノ新、其作(見ヨ)器ノ中ノ水數ヲ任ケテ他ノ器ニ移ス。

あーかぜ (代) 吾御前 わざせ 同ジ 七十二番職人歌合、紫女ノ詞「あかぜの参リアヒテ侯ヒケルカ」

あーさめ 衵 あさめぎぬノ下略

あさめぎぬ 衵衣「(間ニ裁スル衣)ノ意」ちかひきぬ、ちかさ(誓言) 略シテあさめ。

(二)男子ノ束帯ノ時、下襲ノ(下)汗衫ノ上ニ着ル小袖ノ名、表ハ綾、裏ハ

小半繒ニ色ハ表裏共紅ナリ老人ハ白ヲ用ヰル 名義抄「衵、アコメ、アロメギヌ」

(三)婦人童女ノ肌ニ近ク着ル服、略シテあさめ、童女ハ成人ノ如ク表ノ衣ヲ着ズ

あさめぎぬニテヤル あさめきかたト云フ

催馬楽、田中「田中ノ井戸ニ光レル田水葱、摘メ摘メ吾女、小吾女(コアコメ)、田中ノ小吾女(女)(三五ノ)」

七十二番

あーご 網子(あみ子ノ略) 網引スル者 漁子ヲカコ、迫子、せこ(列子)(ト云フ)

万三ノ十三「大宮ノ内マデ聞ユ網引(アビキ)スト網子(アゴ)トノフル(呼集ル)海人ノ呼声」

あーご 吾子 (二)我ガ家ノ子ヲ親シミ呼ブ語、吾ガ子、

万十九ノ三十五、藤原太后ノ入唐大使清河(御甥)ニ賜ヒシ御歌「大船ニ眞楫(マカヂ)繁貫(シジヌ)キ此吾子(アゴ)ヲ唐国ヘ遣ル齋ヘ神タチ」

(三)(昇居ノ)従者ヲ親シミ呼ブ語 神武紀十一、皇軍士大御歌「阿誤ヨ阿誤ヨ」(少)

(皇軍士ヲ呼ビタマヒシナリ) 源、帚木四十七「サリトモあごいハ我ガ子ニテアレヨ」(女ナリ) 職人歌合、機女「あごいヨク織モナゴ」

(三)乳母ヲ呼ブ語、己レテ吾子(アゴ)ト呼バルヲ對稱ニ用ヰテ我ヲ妃ト云フガ如キ語ナルベシ

菅家集「梅ノ花紅ノ色ニモ似タルカナあこがかほニモツクベカリケリ」(幼時ノ歌ト云フ)

大鏡、一「一品ノ宮ノ、ノボラセ給ケルニ、弁ノ乳母ノ御供ニ候フガ、刺櫛ヲ左ニ刺シタリケレバ、あごき、など、櫛ハ悪シク刺シタルゾトコソ仰セラレケレ」

あさい代

あざい　顎腭（顎・齶）（一）口中上下ノ骨、上顎、下顎トニ（アギ、アギト、上ナルヲ・下ナルヲ）

（二）専ラ下顎。オトガヒ、キボネ、下顎

藻日旧記（明應）髯陸「髪ノ薄キハ耳ヨリコレヲ分クルナリ、あざいノ下ヲさいトシテ一方ノ顔ノスミヨリ云々」「あざヲ撫デル」ハ渇ノ意

ナル意「あざデ人ヲ使フ」ハ高ナル意（頤使）顎デ人ヲ使フ傲慢ナル意ナリ

「あざヲハヅス」ハ口ヲ開キテ大ニ笑フ

「あさガ落ケル」ハ美味ナルニ勝ヘズ、「あざヲ昂ル」ハ口ヲ閉チテ食ハレズ活計ヲ失フ（糊口）、あざガヒアガル

意ナリ（卑俗ニ食事ヲあさいト云フ）

アコウ　榕（ハ外来語ナルベシ詳ナラズ）常緑喬木、臺湾ニ生ズ沖縄ニテかじまるト云フ内地ニテ榕ニ似テ気根ヲ生ジテ横ニヒロガル、葉ハ椿ニ似テ葉柄長シ花ハ葉間ニ咲ケドモ甚ダ小サクシテ外ヨリ見エズ実モいちじくニ似テ小サシ、材堅クシテ細工物ニ用ヰラル　いちじくノ如ク

鼓網集「知リタル人ノ遠キ國ヘマカルトテあさだうりヲオコセタリケレバ」

あざい　鳥賊ヲ乾シタルモノ（トビノウヲ）、肥前平戸ノ産、酒ノ下物トシテ玩味トス

あさだ　あさだうり　又あさだかたノ下略

あさだうり　阿古陀瓜（略名ナルベシ）山城ノ八幡ヨリ産ズル瓜　殿中次記（室町時代）二十八、「六月十六日阿古陀五荷、八幡田中寺例年進上」（松屋筆記、三）

中大和本草、八、「あさだ瓜、京都ニ多シ、南瓜（ボウブラ）ニ似テ小ナリ云々」南瓜ヲあさだト訓ズルハ誤レリ」

あさだかた　阿古陀形　あさだ瓜ノ形ナルヲ以テ種々ノ器ニ稱スル語、是レヲあさだ、又あさだなりトモ云フ、兜ニあさだかたト云フハ此瓜ノ中央ヲ横ニ切リテ上部ノ形ニ似タルモノ

雪洞ニあさだト云フハ六角形ノ上下ノ窄ダリタル形ナリ　あさだ瓜ヲ剝キタル形ナリトゾ云フ（柳亭記、上）

あこめぎぬ「衵衣ハ間籠衣（アコメキヌ）ノ略、ちかひぎぬ、ちかぎぬト（蒙書ノ例、玉篇「衵、女人近身衣也」集韻「衵、音昵」（親シミチカヅク意）衵ト書クハ誤レリ」

（二）婦人童女ノ肌ニ近ク着ル服ノ略（下）ニテあこめ。童女ハ成人ノ如ク表（うへ）ノ衣ヲ着ズモノナレバあこめぎぬノマヽニテアルヲあこめぎぬがたトモ云ヒキ

和名抄、十二ノ十九「衵、阿古女岐沼、女人近身衣也」名義抄「衵、アコメキヌ、アコメ」

源、葵「○○ あこめ、人ヨリハ黒ク染メテ」

源、野分○○「ワラハベナドノ、ヲカシキあこめぎぬがた 打チトケテ」

（三）男子束帯ノ時、下襲（シタガサネ）ノ下、單衣（ヒトヘ）ノ上ニ着ル小袖ノ名、表ハ綾、裏ハ平絹ナリ、色ハ表裏共ニ紅ニテ老人ハ白ヲ用ヰル。田下略ニテあこめ。

あさめ−きがた「袙姿」あさめぎぬノ條ヲ見ヨ

あさめ−あふぎ 袙扇（本朝畫史「檜扇云々俗曰袙扇ノ粧為袙姿以持之故也」ノ嬉遊笑覧ニ）

ひあふぎノ條ヲ見ヨ

あさ−あけ「浅緋」禁色ノ其名字音ニテ呼ビキアレバ漢種ノモノト思ヒシ

あさ−あらし 朝嵐 朝ニ吹ク風 續古今〇〇冬「朝あらし山ノ嶺ナル川瀬ニ波寄ル萱ノ音ノサヤケサ」

あさ−じさうげ 麻上下 あさがみしもニ同ジ

あさ−がみしも 麻上下 未ニ多クハ薄藍ノ絲小紋染ニテ紋所ヲ背ト両胸ニ染出ス、畧シテあさ。寛文中ノ年頭ノ礼ノ膃書「月代ヲ致シ麻裃ノ上下着シ」（嬉遊笑覧ニ）幕朝故事談「御用番大名、御儀式御成ノ節ニハ麻ニテツトメル也」御用ノ義有之テ令登城トノ時ハ云ニ麻ニテ出ヅルハ吉事ナリ」

朝ノ御膳ノ稲略シテ 夕ノ御膳ノ 膳ヲ夜ノ御膳ナド称セシ ナラム

あさがれひ　朝餉（あさひノ轉）輕飯ノ約、大床子ノ御膳ヨリ簡略ナル意ナルベシ）餉、
當字ナリ（乾飯ノ約ナリトモ云フ）（一）主上ノ朝ノ供御。禁祕抄上、御膳事「大
床子御膳（謂朝夕近代一度供之）朝餉御膳（謂朝夕夜供）皆一度
供之、此御膳等近代主上不著、又只御膳三度云云」枕草子十「あさがれひ…」
（三）朝餉ノ間ノ略、其條ヲ見ヨ。清涼殿ノ内、西ノ北ニアリ、畧シテあさがれ

あさがほ　朝顔（一）木槿ノ異名、字音ニテ呼ビナアレバ漢種ノモノト思ハル
花ハ單瓣、重瓣、白、淡紫、紫碧、深紅ナリ、朝ニ咲キテ殊ニ美
シケレバ前條ノ桔梗ノ名ヲ奪ヘルナルベシ、又次條ノ牽牛子ニ奪ハレテ字音ノ方ニ行ハル
和名抄二十ノ二十三「蕣、朝生夕落者也」說文「蕣、木菫、朝華暮落
者」名義抄「槿、アサガホ、蕣アサガホ」康頼本草上ノ五十二「木槿、
ムクゲ」朗詠集秋「槿」「槿花一日自為栄」[illegible]
[illegible]

あさがほ　朝顔（二）牽牛子ノ異名、是レモ字音ニテ呼ベバ平安朝時代
漢種渡來ノモノナリ、朝ニ咲ク花ノ裡ニテ美麗ヲ極ムル、又ノ十七ハ木槿ノ名ヲ
奪ヒけにごしノ名ハ行ハレズあさがほヲ專ラニセリ

旧稿ノ文ニツグ

朝ノ御膳 稲ノ飯ニテ 夕ノ御膳 夜ノ御膳カモ稱セシ

御

あさがれひ 朝餉（あさがれひハ乾飯ノ約、大床子ノ御膳ヨリ簡略ナル意ナルベシ）餉ハ

當字ナリ乾飯（行ツニ進ル餉ニ云）（二）主上ノ供御。禁秘抄上、御膳事「大

床子御膳（謂朝夕近代一度供之）朝餉御膳（謂朝夕夜供）皆一度

供之此御膳等近代主上不着、又只御膳三度云々」枕草子十一「あさがれひノ

（三）朝餉ノ間 其伴ヨリ清涼殿ノ内ノ西北ニアリ。男ビテあさがれ

ひとも云フ 枕草子、一「あさがれひのまに上ハオハシマス」源俊合ノ「あさが

れひノ御障子ヲアケテ」年中行事十「朝餉ノ方ニ人音ノシ掛形ノ穴ニ人影ノミシルハ何者ゾ」

あさーぎ 淺黄（色ニ）親王御元服ノ時袍ノ色、今鏡八、腹々ノ御子「位

ニオハシマサヌホドハ淺黄ト日花ニ侍ルナル大、青キ色カ、黄ナルカ、ナホ、オボツ

カナクテ云々、位マダ得サセタマハネバ、黄ナル衣ニコソ、マコレニモオハシマスラム」

吉部秘訓抄「長和二年敦儀敦平御元服両親王着黄衣共淺黄

也世謂之黄衣」

花ハ單瓣重瓣白、淡紫、紫碧、深紅ナリ朝ニ咲キテ殊ニ美

シケレバ前條ノ桔梗ノ名ヲ奪ヘルナリ又前條ノ牽牛子ニ奪ヒテ字音ノ方ニ行ル

和名抄二十ノ二十三「蕣朝生夕落者也」説文「蕣木堇、朝華暮落

者」名義抄「槿、アサガホ、蕣アサガホ」康頼本草上ノ五十二「木槿、

ムクゲ」朗詠集秋「槿」「槿花一日自為栄」非ニ牽牛花

瀧ま夕山

あさーがほ 朝顔（二）牽牛子ノ異名、是レモ字音ニテ呼ベバ平安朝時代

漢籍ニ來タモノナリ朝ニ咲ク花ノ稱ヲ美麗ヲ極ムル又ノナレバ木槿ノ名ヲ

奪ヒけにだし名ハ行ハレズあさがほヲ專ラニセリ

旧稿ノ文ニツク

〔印〕和爾雅本草和名上ノ四十七「牽牛子、阿佐加保（和名抄同じ）

源、朝顔ノ「枯レ免花ドモノ中ニ朝がほノコレカレ這ヒマツハレテアルカナキカニ咲キテ」（三）朝顔ノ花ノ仰ナル形ニ免ルモノヲ朝顔形トテ朝顔形、小便所ノ受筒ヲ朝顔トテ

あさーがほ　朝顔　蝴蝶（「爾雅、釋蟲、「蝴蝶」註「朝生暮死」）虫の名　蜉蝣ノ一名。詩経の蜉蝣古訓アサガホ

あさ、がほ　朝顔、襲ノ色目ノ名。（きくさニ同じ（胡曹抄）

[illegible]

あさーがほ　朝顔（朝ノ容貌ノ意其條ヲ見ヨ）

朝ニ美シク咲ク花

夫木抄四、花桜、與屋ニ「和歌ノ浦ヘイザ帰リナム朝がほノ一花桜ウツロヒニケリ」（ハカナク散ルニ因テあさがほノひとはなさくらトス）

あさ、がほ　朝顔（前條ノ語意ニテ一草ノ名トス　異名トス）

桔梗ノ異名、野生草本ノ花ハ藍紫色ナリ朝ニ咲クガ美シケレバ朝顔
ト呼ビヌルベシ、後ニをかとゝきノ名ガ亡ビ、あさがほノ名ハ木槿ニ奪ハレ桔梗ノ字
音ニテきちかう又ハききやうト呼バル
天治 新撰字鏡（七ノ五）「桔梗 二八月採根曝干 阿佐加保又云岡止止支」（桔梗）
万ハノ三十五、秋ノ七種ノ草花ノ旋頭歌「萩ノ花、尾花葛花、
撫子ノ花女郎花又藤袴朝顔ノ花」（野生ノ草ニテ秋ニ咲ク、次條ノ
木槿ハ灌木ニテ夏季ニ咲ク 秋ノ七）
同十ノ三十五「朝杲ハ朝露負ヒテ咲クトイヘド夕影ニコソ咲キマサリ
ケレ」此歌萩ノ歌数十首ノ間ニハサマリテアリサレバ三ノ句ノ上ニ「萩ハ」ヲ入
レテ解ス）

あさがほ 朝顔（二）朝蕣（牽牛花）
枕草子、十「殿オハシマセバ寝クタレノあさがほモ時ナラズヤ御覧ゼムト引キ入ル」
後撰三十五、下「琴笛ナドシテ遊ビ物語ナドシハベリケルホドニ夜深ケニケレバ
マカリトマリテ又ノ朝ニ「昨日見シ花ノ顔トテ今朝見レバ寝テコソ更ニ色マサリケレ」
あさがほ 朝顔（三） 蕣ノ異名（後水尾院年中行事）婦人詞ニテ、焼キ
タル面ノキヨラナラヌヲ女ノ朝顔ツクロハズニ辟言ヘテ云フ（片言、四）懐
子集（明暦）「明ケヌレバ顔ノミツチヤ見エマシ」タマクレゲ、蓋アケテ四目ク麸
のやきこ」

△文選呉都賦「蕣蕣而咄」李善注「蕣、木槿大菜観」

△文選呉都賦「䑛然而咍」李善注「䑛、大笑貌」

あさごち、朝東風　朝ニ吹ク東風。

万十 三十七「春日野ノ萩ハ散リナバ朝東ノ風ニタグヒテココニ散リコネ。」

あざーわらふ　紀四「大噱笑」（噱ルガ如クシテ）「噱笑ノ義」（二）大キニ笑フ。

神代紀下ノ十一、猿田彦神ニ向ヒテ「天鈿女乃露其胸乳、抑裳帯於臍下而笑噱向立」天治字鏡十二ノ三、「䑛、安佐和良不」

「[illegible]」字類抄「咍、アザワラフ」「笑也」

（三）囀ジテ嘲リ笑フ。神代紀下ノ十八「天孫見其子等嘲之曰」

云々　吾田鹿葦津姫乃慍之曰「何為嘲妾乎」古事記中、

（神武）紀七「此者嘲咲者也」皇極紀十四年八月、蘇我馬子が誅タテ

マツリシ屋刺守屋「聞然而咲曰如中猟箭之雀鳥」上」

あさじめり 朝湿 朝ノ霧雨ナドニシメリタルヲ 新古今ノ秋上「薄霧ノ籬ノ花ノ朝じめり秋ハ夕ト誰カ云ヒケム」

あさぢ 鯵 魚ノ名、おひかはノ古名ナルベシ 其條ヲ見ヨ

散木集「濁リナキ、水ノ面ニ月ハ宿ラズハ、イカデあさぢノ数ヲ知ラマシ」顕

昭ノ注「あさぢハ云ニ鮠トニフ魚ノ老テ色ノ赤ミタルヲ云フトモ下人申

ス歟」

和名抄十九ノ四「鯵ハ阿散知、唐韻云大口細鱗有斑文者也」

李時珍云鯵魚生江湖中扁形闊腹背有鬐鬣[illegible]刺人肉中無

細刺

あさ・かん 朝刊 夕刊ヲ見ヨ

10

あさ[illegible]だき 浅葱 [illegible]ヲ見ヨ

[illegible]

大木ニナル木 [illegible]

[illegible]

あさぎ　淺葱　(三)裳ノ色目ニ表裏共ニ薄紺ノモノ。

(三)あさぎらノ裏(三)（悪木　あさきかたぶレたふさ（膝）ノ例）（よさきまよ五しま（横））

あさぎき（淺木　朴ノ葉木）（粗悪ナル材木。雑木カト云フ）

千載ノ恋三「アヅマヤノあさぎノ柱われナガライツ節ガノふしナルテ恋ニサルラム」　新撰六帖六「朴ノあさぎノ柱節繁ミひまダツヘクモナキ」

「……」大木二十九、木「取リカヌルあさぎノ宮木節繁ミ、サモわれに……人ノ言ヘカナ」

衣食住記（天明）「男女衣服ノ裏ノ色ハ淺黄白萌黄、スミル茶ナリシガ元文ノ頃ヨリ黒裏　江戸ノ代　焊……」

あさぎうら　淺葱裏　(二)衣服ノ裏地ノ淺葱色ナルモノ(三)多ク其裏地淺葱ノ裏ノ服ヲ着タリシニ因テ田舎侍ノ隠語、蔑シテあさぎ。　延宝ナド三

△貞徳之集（寛永）淺黄襖塗足打」

あさぎき（ざき）　淺葱　襖ニ見ユ　「淺葱合器」

あさぎた　朝北　朝ニ吹キ来ル北風　土佐「〇〇〇御船ヨリ仰セ給ブナリ朝きたノ吹キ来ヌサキニ綱手早ク引ケ」

あさぎぬ　麻衣　(三)麻布ノ衣　アサゴロモ　古ヘ喪ニハ白麻衣キタリ

万九「真間ノ手児奈ガ麻衣ニ青衿ツケ」　万十三ノ二十八　高市皇子挽歌「ウチヒサス宮ノ舎人ハ栲ノ穂ノ麻衣著ハ夢カモヤ現カモヤト」（白栲ノ目ニミツナリ）

あさぎよめ　朝淨　朝ノ掃除　拾遺〇〇雑春「殿守ノともノみやつこ心アラバ此春バカリ朝きよめスナ」（田ヤードニリ）

あさぎり　朝霧　朝ニミツ霧（朝霧ニ...）

あさぎーせん　淺葱襖　又あさぎ合器、黒漆塗ノ襖ニは淺葱色ノ漆ニテ模様ヲ書キ云ニ雑ニ、土器ノ縁ノ漆上以テ淺葱色ノ、色并朱白之漆書之源氏鳥ニ木皮紙漆青キ物ヲ青漆襖あさぎ

あさぎき（ざき）」△

あさがらす　朝鴉　夜明朝ニ鳴ク鴉、アケガラス、万十二ノ二十八「朝烏早クナ鳴キソ吾ガ夫子ガ朝明ノ姿見レバカナシキ」

あさくさ-のり 浅草海苔（昔ハ武蔵ノ浅草川ニ産セシト云ヒ又品川大森ノ産ヲ浅草ニテ製セシナリト云）8セドル

増補江戸惣鹿子（寛延）ニ

あさくさぐろし 形ニ（浅黒）ト薄黒シ（人ノ肌ニ云フ）

あさぎくさくら 浅葱桜 末ニ 四季物語、加茂ノ御社ノアタリ、みあれノ山ノ

桜ハ あさ黄ナルモアリテ云々

あさくわんおん 朝観音 観世音ノ縁日ナル毎月十八日ノ朝ニ参詣スルヲ 華厳ノ縁日ナル毎月八日ノ夕ニ参詣スルヲ夕華厳

ト云フ 共ニ吉時ナリトス（花鳥経）

あさざけ 朝酒 古人ハ卯ノ酒（卯酒バウス）朝ニ酒飲ムヿ 卯飲

雑俳 酔狂集（享保）酔顔ハ卯ノ色モ昨日ハ落紅葉

時雨ニマケヌアサナあさ酒

あささむ 朝寒ニ

あさだか 朝鷹（朝ノ鷹狩 春ニスルコトナリト云フ）

あさぢざけ 浅茅酒 豊後ニテ製スル酒ノ名、冬醸シテ土中ニ埋メ草茅ニテ覆ヒオキ夏ニ出シテ飲用ニ供セラル、又ツチカブリ。

朝生酒（アサフ）、麻地酒（マチ）トモ云フ

あさぢや 朝茶 (一)朝ニ飲ム煎茶 (二)茶会ニ客ヲ朝ニ招待スルヿ、茶事ノ一ニ数ス（茶子ヲ見ヨ）(三)朝茶子（アサチヤノコ）ノ略（静岡県ニテ朝飯ヲあさちやトモ云フ）

あさぢやのこ 朝茶子（竹筒草ニ煎茶ナドニテ食事ヲ済スヿナルベシ）

(二)朝ノ豆菓子、朝餉（あさぢや）(三)宕谷ナドニ、習ヒデテチルコト、浅井三代記 十四ノ 浅井カ城ハ

チヒサイ城ヤ、アアヨイ茶ノ子 朝茶ノ子（カヲ費サズシテ攻落スベシトノ意）

俗ニおちやのこトモ云フモ是レナリ 雑俳 宝暦二年 茶飯草

別行ニカゝク

あさづくひ　朝附日（朝日ト云フニ同ジ）あさだつ　やまだつ
朝日出ヅルハ直チニ於向ハルレバツクナリ）向ふノ枕詞。万七ノ二十八「朝月日
向ヒノ山ニ月ノ立テリ見ユ」同十一ノ十三「朝月日向フ黄楊櫛旧リ
ノタレド」（櫛ノ歯ノ並ブ方ヘ向ヘバ云フ。二ツノ月ハ借字ナリ）
夕附日ハ名詞ニテ、夕日ト云フニ同ジ（夕日ノ語意ヲ見ヨ）
「万十八ノ十五「夕附日サスヤ川辺ニ造ル家ノ形ヲ宜シミ諸モ寄リキ来ル」
（日影ハナヤカニサス意ナリ）（金葉。日暮ノ下ニ夕附日入ル山ノ端モ云ヒ）
あさづくよ（名）朝月夜（夜ニ意ナシ、夕月夜モ同ジ　月夜ノ条ヲ見ヨ）朝月ナリ
朝ノ有明ノ月。アカツキヅクヨ。　并ニあかつきやみ
万十ノ二十九「朝月夜清ニ見レバ」同九ノ二十四「朝月夜明ケマク惜シミ」
夕月夜ハ上弦ノ頃、早ク出ヅル月。（諸条ヲ見ヨ）暮月夜　朝影

あさとで　朝戸出　朝戸ヨリ出ヅル、朝ニ家ヨリ立チ出ヅル、夜ニ出ヅルヲ夜戸
出ト云フ　万十ノ十七「朝戸出ノ君ガ姿ヲヨク見ズテ長キ春日ヲ恋ヒヤクラサム」
万十二「朝戸出ノ君ガ足結ヲ濡ラス露原」続古今ノ西詩祢「夜ヲコムル
蘆ノ篠屋ノ朝戸出ニ山陰暗キ峯ノ松風
万十二ノ四〇〇「我妹子ガ夜戸出ノ姿見テシヨリ心空ナリ地ハ踏メドモ」
あさとこ　朝床　朝ノ寝床ニアルコト　万十九ノ〇〇「朝床ニ聞ケバハルケシ泉
川、朝漕ギシツツ、謡フ舟人」
あさくさにんぎやう　浅草人形　木彫ノ人物諸器ニ極彩色ヲ施シタルモノ。江戸浅
草花川戸ノ福島安三郎（親之、華岸ト号ス）明治十五年死、四十六　創製ス

仙臺日々[illegible]

家庭講壇

◎浅漬の漬方

失敗したいように

浅漬一樽を漬けるには生大根五十本、鹽三升、白ザラメ五百匁、麹三升、外水五合を用意します▲先づ樽は水漏り等のなきを見極め充分清潔にしたら茎根より切り落した大根を樽底にならべ鹽二升をふりかけ乍ら漬け込みます、かくて漬け終つたら準備の水五升を上から注ぎ込み確かな壓し蓋をし壓し石を乗せると約一週間位で水が上がつて來ますから其折大根を樽より引上て水氣を切り置き、残水全部を捨去つた樽の中に改めて殘しある鹽一升に麹とザラメをまぜ合はせ、大根を一列にならべ上からふりかけ漬直すのです▲全部漬けたら荒漬けの時の如く壓し蓋をして壓し石を乗せ置くと十日後にはおいしい浅漬が出來上るのですが、注意としては干大根を用ひぬと壓し石は漬け込む材料の量と同じ位でないと水あがりが遅く味ひも落る事、猶保存したい時には荒漬けの鹽を捨て二度目に強くすると宜しいが、糖鹽浅漬は常座漬に味が見られます

（東京割烹女學校長談）

◎良否分方見

△▼味噌

お味噌にも色の種類がありまして赤味噌は黄又は茶褐色をして居ります、白味噌は白く、八丁味噌は暗褐色です善い味噌は何れも光澤があつて、酸味も適度で、苦味も酸い味もなく風味のいゝのがよくあります、同一量の水に溶し煮立て、汁に作り、試食してみればすぐ解ります腐敗に近づいてゐる物は黒色を帶び光澤もなく、厭ふべき酸い味と臭氣を持つて居ります

△▼お肴

眼が突き出て眼瞼がはり角膜が透明な方がよく眼がくぼんで眼瞼の廻り赤くなつて居るのや眼がつぶれてゐるのは新しいのではありません、鱗が生きてゐるやうに光り體に固着してゐるのはよいが光澤もなく剝げ易く粘性を帶びてゐるのはよくありません。お魚の肉はしまつて彈力あるのがよく、指先で押して見て指の跡がつかぬ方がよいのです。鰓をひつくりかへして見て鮮紅色を呈し、鰓蓋及び口を堅く閉ぢて居るもので、灰色や淡黄の鰓をもつてゐるものや鰓蓋の開かないのはいけません

…太哲朗氏の市會議員當選を祝し、栗飯の名物と任天大夫野澤秀治師、二、機械商佐藤好記、同鹿野久兵衛、同島山隆平、大森秀治、島山…宮島連鎖（空中劇）大ケレン劇富士川天魔一座にて開演、登場藝題は嶄新なる方法に依り白狐秋江に扮する俳優の懸賞募集をなす由

宮城縣地方株式相場表

株式名稱	拂込額	配當	仲値
宮城農工	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七十七	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城商業	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東北實業	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]銀行	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城貯蓄	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新貯金	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]信託	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大正信託	[illegible]	[illegible]	[illegible]
土地建物	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺米穀	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺瓦斯	[illegible]	[illegible]	[illegible]
松島汽船	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新水電	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大崎新水電	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙北電氣	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳴瀬水電	[illegible]	[illegible]	[illegible]
名取水電	[illegible]	[illegible]	[illegible]
江合水電	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺水電	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三和製氷	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新製氷	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺板紙	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺化工	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺染織	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城植林	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺魚市	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鳴子林業	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東北セメ	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仙臺印刷	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東洋醸造	[illegible]	[illegible]	[illegible]
日本毛織	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮城スレ	[illegible]	[illegible]	[illegible]
宮業電工	[illegible]	[illegible]	[illegible]
カフェー	[illegible]	[illegible]	[illegible]

◎右の外諸公債株式賣買共誠實御取扱可申候　仙臺市國分町四十五番地

[illegible]

あさ-かは　朝川　朝ニ川ヲ渡ルコト、夕ニ渡ルヲ夕川ト云フ　万一ノ十八「モモシキノ大宮人ハ船並メテ朝川渡リ舟競ヒ夕河渡ル」十六夜日記「二十七日朝ケハナレテ後、富士川渡ル朝川イト寒シ」

あさ-しほ　朝潮　朝ノアゲシホ。へうしほノ條ヲ見ヨ　名義抄「潮、アサシホ」万二十ノ四〇「堀江ヨリ安佐之保ミチニ寄ルコツミ」

あさ-さら-ず（副）朝不去（さらず（去）ノ條ヲ見ヨ）朝毎ニ。マイアサ。やふさらずハ夕毎ニ。
万六ノ四十五「朝不去来鳴キトヨモス[illegible]ノ」万十七ノ四十二「我ガ背ノ君ニ安佐左良[illegible]受令書ヒチ言問ヒ」万三ノ三十三「今日モカモ、明日香ノ川ノ夕不離河蝦鳴ク瀬ノ清カルラム」

あさ-つぱら（名）（早朝）（あさはら（朝腹）ノ訛ニモアラムカ）俗ニ朝早キ頃。早朝。「あさばらカラ酒ヲ飲[illegible]」

(金葉○○○○○ 三日月「山ノ端ニアカデモ入リヌル夕月夜イツ有明トナラムトスラム」

別ニ

一万十八ノ十「春サレバ木ノ(木)木暗ノ暮月夜オホツカナシモ山陰ニシテ」

万十五ノ十八「由布豆久欲」

源、拗○○ 九月七日(月)「ハナヤカニサシイデタル夕月夜ニ」中務東華「七目

夕月夜オボツカナル」ニ

万十二ノ十八「ユフヅクヨアカトキヤミノオボヽシク見シ人ユヱニ恋ヒワタルカモ」

夕月夜ハ枕詞ノ如ク用井ラレタ(晩)暁闇ニツヅク

朝月夜(夕月ノ時ハ必ズ暁闇トナル)古今○○秋下「タづく夜小倉ノ山

十二ノ二十九「ユフヅクヨ暮月夜暁闇」

ニ鳴ク鹿ノ聲ノ内ニヤ秋ハ暮ルラム」

あさゞけ 浅漬(淡ク乾シ薄塩漬)(僅ニ数日漬ケテ食スルモノトシテ)澤庵漬ニ對スル名

ナリ 塩押一種ノ塩漬大根ノ名、薄(軽)ク乾シタル大根七八十本ニ塩二

升ト少シノ水ヲマゼ樽ニ入レテ石ヲ壓(オモシ)トシ一週間ノ後、更ニ塩一升ザラメ砂

糖一貫目麹二十枚ヲ入レテ再ビ壓シテ六七日ニテ成ル。昔ノ女房詞ニあ

澤庵漬ヨリハヤカラカシ。

の菓子同様容易に

り家……りし……て吸

が生命無東なし原因は不明なるも深き事情あるらしく目下取調べ中

かま法口の参乳及油豆

れしものにて死後四十日を經過し全身腐爛目鼻さへ定からず身長其他より判斷して十五六歳の男子た

を突止め行衛嚴探中なりと

●犬可愛さに

詰格鬪の末一圓六十錢を殘して全部取返し其際犯人の持てる短刀の爲め右腕に傷を負ひ賊は逃走せ

の犬好きにて久しく一頭の畜犬をるを家人が嫌ひ居る所より自分が十二月に入營すれば好きな犬は

白粉

色を白く美しくする

ねり製……御園白粉

白粉下御園クレームは、化粧下に用ゐる時は、白粉の着きを非常によくする許りでなく、御平素缺かさずおつけになれば、肌理を細かく滑かにする特效が御座います。

御肌を美しく整へる爲には、日毎に御園白粉でお化粧遊ばすに限ます、御園白粉さへおつけになれば、知らずくの間に色白く艶々とした美しさを増すことが出來ます。

(七五八)

さあさトニヒシハ製法今ト異ナルベシ（あさあさノ條ヲ見ヨ

あさで　麻手（麻桛ノ總）麻布ニ同ジ　一ノ十四ノ十九「安佐提小衾」

拾玉、四「あさで乾スほきノ枝ニ居ル鵙」

あさづま　朝妻

あさづま　名　朝妻船　近江國坂田郡朝妻ノ舟ノ船、眞名湖水ヲ漕ギワタル船ヲ浮オホヨソニ買ハセテ云ヘリトオボシ、筑紫

山家集、下「オボツカナ膽吹オロシノ風サキニ朝妻船ハ逢ヒヤシヌラム」

アサハカナリ

淺シ 自

あざぬ　スル・乏ネ　他下二　アザフ、マジフ、マズ　一ノ十三　カクロキ髪ニ真木綿持チ阿耶尼結ビ垂レ

あざふ　フル・乏　紏　アザヌ　マジフ、マズ　卯花ヲ上ノ二十「品物集」　アザヘテ　偉野之白机ニ而倍老之　私記「安佐倍豆」

あざふ　フルフレへ　他下二（太平記、三）「具行卿ヲ被斬レ」「六月十九日某ト書キテ李ヲ拋チテ手ヲアザヘ（座ヲ正シ）両手ヲ打チ」

淺し、淺井　紏　アザヌ　漂、常真、カザル　双六ノ筒ナヒネリツ、トミニモ打出テズ中ニ思ヒハアリヤスラム、イトあさへ（タル若ドモニ入リ　又手

紫日記　若ヤカナル人コソ物ノ程知ヲヌヤウニあざへ（孔モ罪許サル、何カアサレガマシト思ヘバ

漂　タ、打チあざへ（タル思ノマヽノ眞心（淺ク有リテ何ノ思慮モナクテアリ）

あざなふ　他四　糾（糾ハ綯ニテ縄髪ナドニ用組合ハセテ綯フ　アザフ、アザヌ

名義抄「糾　アザナヘリ」字類抄「双カザナフ」文選　如糾纆　アザナヘル

あさちはら　自口

太平記

糾、結ひはあざなふ縄ノ如シ

紏フノ自動　マトナル　オナナル　ウコナル　アザル

名字義抄「擽ノアザナハレリ」（よろたみ よろたる（揺

（糾フノ自動）まとふ　生よる（纏）なみくるる（紆）

あさはる　自　四　糾、名義抄「紏、アサハレリ」継体紀七年九月「手ダ抱キ阿差播梨」

（同）糺催　アサハルナハ　アザナル

さあさトミヒミハ製法今トレ異ナルベシ（あさあさノ條ヲ見ヨ）

あさーで　麻手（麻（アサヌノ）桛ノ緦）麻布（アサヌノ）ニ同じ　一ク十四ノ十九「安佐提（アサテ）小衾（コブスマ）」

拾玉.四「あさーで乾スほしきノ枝ニ居ル鴟」

~~あさづま　朝妻~~

あさづま・ま　朝妻船　近江国坂田郡朝妻ノ舟　船。真名　湖水ノ漕ギワクル船マ　オホヨソニ買ハセテ云ヘリトオボシ

山家集下「オボツカナ膽吹オロシノ風サキニ朝妻船ノ逢ヒヤシヌラム」

拾玉.七「鳥ヲ分ケテ朝（つま）あさも過ギヌレバ同じ湊ヲ又帰リ（書入）ル」

後世朝妻船トテ美女ノ乗ル船ヲ図ス古ク遊女ノ乗リシコトアルナルベシ

あさーで　浅手　スコシノ手傷（キズ）　深手、痛手ニ對ス　微傷　無数船数　ナルベシ

あさーと　朝戸　朝ニ戸ヲ開クニ就キテ云フ様　行クヒトヲ朝早トミフ

崇神紀八年四月「阿佐妬ニモ出デ、行カナ」　古事記下ノ四十一「五百ガ大君」

10

万八ノ0000「事繁ミ君ハ来マサズホトトギス汝ダニ来鳴ケ朝戸開カム」

「阿佐斗ニハ伊倚リ立タシ由布斗（ユフト）ニハ伊倚リ立タス」

続古今四の夏「朝戸出ニ立出デ聞ケバホトトギス山ノ端見エヌ方ニ鳴クナリ」

不ハカナリ

淺山自

長ニ鼠

あさくル

あさぬ　スル　えネ　代下ニ　大クロキ　髪ニ真木俾持ヲ阿御尼結ヒ垂シ

あざふ　フルヒ　紺　アザフ、マジフ、マズ

〔鞠〕アザヌ　ジフマズ　神代下上ノ二十「品物薬」　衛（アザヘテ）野之百机而偶之　私記「安佐倍豆」

あざふ　（太平記三　具行卿）フルフレヘ　世下ニ　源ノ常真ハ「二月十九日某ト書キテ李ヲ抛チテ手ヲあざへ（座ヲ乗テ）両手ヲ打チ」トミニモ　打出テズ中ニ思ヒトハ

淡・汝井　カサヌ紙　紫白衣　若ヤカナル人コソ物ノ程知ラズセウニあさへ（タル若ドモ）ニモアリ　アリヤスラム、イトあざへ　又手

源　タ・打チあざへ（タル思ノマゝノ真心（浅クアリテ何ノ思慮モナクテアリ））何カアサレガマシト思ヘバ

あざなふ　代四　紉（糾ヘ絢ニ）組合ハセテ綯フ　纏髪ナドニ　アザフ、アサヌ

名義抄「紉アザナヘリ」字類抄「又カザナフ」文選

あざちはる　自四　太平記　糾　糾フノ自動　結ニハあざちはる　縺ノ如シ　名字類抄「摎ノアザナハレリ」　ミナハルオホナハルウコナハル（よみたみよまはる（摎））アザナル

如糾纏

（鞠ノ自）（糺）さとみ生ふ（纏）にあらはる

あざはる　四　紏　名義抄「糺、アザハレリ」　継体紀七年九月「手抱キ阿若播梨」

自　紏（同）糺纏　アザハレナシ　アザナル

アリ後ニあさばらけトモナリタレバ

あざる

あさ女コルエレエ　四　行徨　タチモトホル　一ノ五　三　宰阿卍ノ財里我ガ宅ヒ祈メド

色浅クナル、薄ラグ。褪

あさむ　自下二　淺（浅ノ活用、浅メ、ト同語ノ変）

馬内侍家集、紅ノ衣ヲ男ノ見セテオコセタレバ「クルニトテ色ニ出ヅレバあさえケリ深キタチハ

苅ヲ見ルカナ」

あさびらき（名）朝開（朝開漕ギタトバ）ケタレバ連用形ナルカナレドモ思ハルレド萬

葉七ニ「朝開ニテ」ト限名詞トス　朝ニ早ク船出スルコト、然レドモ言ヒ別

レテハ朝ニ限ラズ、唯船出スルコトニ云ヘリト見エ且、漕グノ枕詞ノ如シトモ

十七　万三ノ三十二「世ノ中ヲ何ニ譬ヘム旦開漕ギニシ船ノ跡ナキ如シ」

万九ノ八「朝開漕ギ出テ、我ハ由良ノ崎釣リスル海人ヲ見テ帰リ来ム」万十七ノ

五十「珠洲ノ海（能登）ニ安佐比良伎シテ漕ギ来レバ長濱ノ浦ニ月照リ

ニケリ」同十八ノ十二「安佐妣良伎入江漕グナル楫ノ音ノ」

あさぎ十ナルナル　自上二　淺

あさまいぬ（未）ニ　享保頃畫工英一蝶、小舟ニ遊女ノ水干、烏帽子

ヲ着、鼓ヲ持チテ乗リタル圖ヲ畫キテ朝妻舟ト稱セリ　朝妻トイフ

地名ニ就キテノ意　近九（？）

あさちやのたい　朝茶子　ちやのたい、條ヲ見ヨ

あさぶち　朝物　年中朝毎ニ御菓子師（河端道喜）ヨリ供御ニ消

進スル餅、粽、菓子ノ類ヲ御朝物ト云ヒ民間ニテモ朝飯ヨリ前ニ何ニテモ

食フヲ朝物ヲ食ト　あさぶさトモイフ（嘉山雑談、一）

あさひしせうぞん　旭将軍（暫時ノ間ノ意）寛保ノ

浄瑠璃ノ名題　寛永三年三月十日　征夷大将軍宣旨同年月二十日近江

粟津ニテ敗死セリ

あさ－二女えき 朝観音 未：

望一百千句（慶長）「信ジツヽ参ラバ秋ノ夕華哉」

河内鑑（延宝）住吉村正観音「朝観音参リヤ霞ノ道スンヂ」（柳亭記、下）

あさ・ぼらけ 朝朗（あさびらきノ轉ニテあけぼのト混ジタル語ナラム）

アケボノ。~~夜明~~ 夜ノシラジラアケ。シノノメ。名義抄、日部「凌晨、曙、アサボラケ」

古今○○冬「朝ぼらけ有明ノ月ト見ルマデニ吉野ノ里ニ降レル白雪」

カ三ノ三十二「旦開（アサビラキ）漕ギニシ船ノ跡ナキ如シ」

~~朝ぼらけ~~

此歌、拾遺二十ニ載セテ「朝ぼらけ」ヲ改メタリ

~~白浪~~

~~源氏「カク あさまシタヘ 女ノ身ニ ダニ後レタル コトト口惜 ウオボサル」~~

三 蔣心集二贈 長明「手ヲ あさへ目ヲ 閉チテ息テ トトへ」

具行録 切ラレ

あさ・ぶ フルフレヘ 自下二 浅（浅ヲ活用ス。浅ル、長ル（浅）ナドト同趣語）

（二）浅クアリ。源、竹川「マダ位ナドモあさへタホドテ、オドオボスニ」

（三）浅ハカナリ。思慮足ラズ。源○○「イト打チあさへタル思ノマヽノ道心」

源、常夏「双六打ツ…トミニモ打チ出デズ。中ニ思ヒハアリヤナス」

源、紅三ノ「若ミニあさへタルコトニハ、カヘリテカルガルシキ」

イトドあさへタルサマドモ…」紫日記「若ヤカナル人コソ、物ノ程知ラヌサマニあさへタルモ罪許ルレ、何カアザレガマシト思ヘバ」

あさへ（蔓）浅ふヲ見ヨ

あざん（蔓）鮮ぶヲ見ヨ

○一 遊仙窟「拳手頻足 雑合空商」

二 童蒙頌韻「鞋鮮」

あざ・ふ フルフレヘ 他下二 叉（一）雑ヘ、マジフ。神代紀上ノ二十「品物悉備、駢（アザヘテ）之百机而饗之」私記「安佐倍豆」（三）打チチガヘ組合ハス。（アザヌ、アザナス、）

四 太平記、三、○○○「六月十九日某ト書キテ筆ヲ抛チ手ヲあさへ座ヲ…」

腕組ヲス。

ミヂノヘル

ナホニレ云ニ」

あざぬ　ヌルヌニ不　他下二　〔紏〕糾　綯フニアザナフ、アザフ、万十三ノ○○○「カクロキ髪

ニ真木綿持(?)以テ阿邪尼結ヒ垂レ」

あざなふ　他四　〔糾〕（𠬤ヘ綯ガ〔ナ〕ヘ𠬤ヘアハス、アザフ、アザス、綯フ、纒フ、纒ル、搓

名義抄「糾、アザナヘリ」すれ抄「𠬤[illegible]」文選○○○○「如糾纆」

あざはる　自四　〔糾〕（𠬤ふノ自動）まとふ、まとはる（纒）

ノ例」𠬤フルヤウニナル、アザナハル（マトハル）継体紀七年九月「妹ガ手ヲ我ニマカシ

メ我ガ手ヲバ妹ニマカシメ、マサキヅラ、手ダ抱キ阿蔵播梨」名義抄「糺、

アザハリ」同「糺纒、アザハレルナハ」

あさあさ（名）朝々（朝な朝な、ユフベ、ナ[illegible]、夜な夜な、ヨルヨル、夜な夜な）

朝ナ副タナ、万十二ノ四十二「伊勢ノ海人ノ朝ナ夕ナニ潜クチフ鰒ノ貝

ノ片思ニシテ」（朝菜ハ借字ナリ、朝菜ト見テハ自 あさなさなニ合ハズ）

あさ・な　〔朝菜〕（アサノ菜、魚ヲ菜ト云フ、[illegible]ナル語ナリ）

朝飯ノ魚菜　副食物　万十六ノ二十二「イザヤ児等香椎ノ潟ニ白妙ノ袖サヘ濡

レテ朝菜摘ミテム」（海菜　海藻類ヲ云ヘルナルベシ）巾十中十廿「由山川（?）安佐奈流

〔?〕」借馬集、我門「我カ門ニ上ツ裳ノ裾濡レ下ツ裳ノ裾ヌレ安左名摘ミ

由米名摘ミ」曽丹集「御園生ノ薺ノ芽モ立チニケリ今朝ノあさな

ニ何ヲ摘ママシ」

雨ソソギ」ナド觸ル傳ノ同類ノ補ナリ」

あさあさ、さあさ（副）【朝々】（朝間朝朝ノ約）朝間ノあさハ上ノあさノ韻ニ合スルナリ 催馬楽、東屋「あづまやノ（あづ）まやノアマリノ

朝毎ニ。マイアサ。 万十ノ十三「真澄鏡、手ニ取リモチテ、朝々、見レドモ君ハ飽クコトモナシ」 同二十ノ四十二「阿佐奈佐奈上ガル天鵠ニナリテシガ、都ニ行キテハヤ帰リ来ム」

あさなあさな（副）朝ナ朝ナ

古今、一、春上「野辺近ク家居シ居レバ鶯ノ鳴ク

ナル音ニあさる さる聞ク」

あけぐれ（名）【明暗】夜ノ明方ノマダ薄暗キホド 【昧旦】万。。。。「明闇ノ朝霧隠リ鳴キテユク

雁ハ吾ガ恋フ妹ニ告ゲコソ」拾遺、秋。。、暁ニひぐらしノ鳴キハベリケレバ「朝ボラケ

ひぐらし聲聞ユナリコヤあけぐれト人ノ云フラム」詩経。。「昧旦」朱注「昧、

晦、旦、明也、昧旦、天欲旦明晦明未辨之際也」

（聖武天皇ノ頃ノ人ナリ）

ミクベル

あざな（名）【字】（字ハ義、本名ニマジヘテ持ツ名ノ意）字、字ハ次條ノ語ヲ

借レルナリ 實名ノ外ニ持チタル名、後ニ 俗名、

假名ノ如クナレド人毎ニ必ズアルモノニアラズ 名義抄「字アザナ」

仁賢紀 「億計天皇諱大脚、字嶋郎」万十六ノ二十三「吉田連

老、字曰石麻呂」霊異記中ノ卅二「姓文忌寸也字曰上田三郎」矣」

素性法師集「素性ガあざなヲよしよりト付ケサセタマフ（袖中抄ニ素性ハ

石上良因院ニ住メリトアリ）寺名ニモ云フ 霊異記下ノ第三十「寺有名草

郡能應村ニ名曰弥勒寺ニ字曰能應寺也」地名ニモ云フ 後ニ異ニテ

あざトモ云フ是レナリ 朝野群載、七「大和國山辺郡、字、上庄田地事」

宇治拾遺 二ノ二十三「盗人ノ大将軍保輔ガ昌保朝臣ニあざな袴垂ト言ハレシ候」（コ）

レハ醜名、またあだなト（キカ） ウラニ

玉葉ニ「字伊豫内侍」字雑内侍ナドアルハ呼名ナルベシ

宇治拾遺二十條ニ「件ノ者ノ字ハあざな袴垂トテ名高キ者ナリ」〔皇保ノ朝臣〕

大盗人之人ニ世ノあざな袴垂ト言ハルトアルナドハ醜名ナルベキカ

あざな 字 〔士冠礼〕〔前條ノあざなヲ借リテ訓トス〕 支那ニテハ實名ノ外ニ必ズ設クル名ニテ、君父師等ニハ實名ヲ称ス 常ニハ他ニ向テハ字ヲ稱シ他ヨリモ其ノ字ヲ稱ス 他人ノ實名ニ代ヘテ字ヲ稱ス

（孔子字仲尼）儀礼「冠而字之敬其名也 君父之前称名、他人之前称字也」

諸葛亮、字孔明」陶潜、字淵明」

我ガ邦ニテモ儒道者流ハ支那ニ倣ヒテ字ヲツクルコトアリ「菅原道真、字菅三」三善清行、字三耀」新井君美、字〇〇」荻生双松、字茂卿」

古ヘ儒者ナル者学生ノ入学ノ時式アリテ字ヲツケ文章院ニテ堂監名

篤ニ書キツク 源少女七、「あざなツクルコトハ東院ニテシタマフ東ノ對ニヲコレツニハレタリ 上達部殿上人ニ集ヒマヰリタマフ 博士ドモモナカナカ臆シヌベシ」（夕霧ガ字ツクルコトナリ）

あざ－なはる〔自四〕紏（あざなふ）ノ自動、よさたふよさたはる（措）ノ例

紏〔アザナ〕フヤウニナル、アザハル、マドハル。名義抄「摎、アザナハシリ」

あさな－ゆふな〔名〕朝夕ハ朝間〔アサマ〕夕間〔ユフマ〕ノ約 よるよるモ夜間〔ヨルマ〕夜間〔ヨルマ〕ノ約

朝ノたビ、夕ノたビ。朝夕〔アサユフ〕毎日。

拾遺、十七、雑秋「深山木ヲあさなゆふなニ伐〔コ〕リツメテ寒サヲコフル小野

ノ炭焼」〔長門本〕平家、四「あさなゆふなヲ訪〔トブラ〕フヘキ人ヒトリモ、附従ハヌコトナレバ」

同、六「あさなゆふなハイタク都ヲ思ヘバ」

あさ－の－さごろも 麻衣 あさぎごろもヲ見ヨ

あさ－はか－な 副 浅（三）濃カラズ「万十二ノ十四」アサハカニ、ウスラカニ。紅ノ薄染衣浅〔アサハカ〕ニ（次項ノ意　浅〔アサハカ〕ニ

〔ラカ又〕相見シ人ヲ恋フルコロカモ」（三）奥深カラズ、精[illegible]源、夕霧、十三。

「月ニ云マ差入リタリあさはかナル庭ノ軒ハホドモナキニチスレド月ノ顔ニ向ヒタルヤ
ウナル」(三) カード入ル

あさねばう 朝寝坊〔擬人ニシタル語 世智辯坊 操陣坊ノ類〕
朝ノ寝ル癖アル人

あさはら 朝腹 (二)朝飯前ノ空腹。「朝腹ノ茶子」(茶子ノ條ヲ見ヨ)(三)音便ニあさつぱらトモ云ヒテ朝ニ早キコトトス「あさつ
ぱらカラ押シカケル」
「あさつぱらカラ酒ヲ飲ム」

あさまま(副)淺〔あさましノ約ナルベシ あさまあさまノ例〕
奧深カラズ。アラハニ。大木、十三「端近クあさまま閨ヲ見ツラヒテ空行ク月ヲ入ルヌ
夜ゾナキ」

あさまゐり 朝参 朝ニ神社佛閣ヘ参詣スルコト

あざむ 自、四 〔潮〕〔潮ヲ活用シテ淡ムト同趣ノ語、褪ル、意ニテ濁ル、あざやら
ふあざける同根ノ語カ〕オドロキアキル。アハム。アキレカヘル。(アサケコトヲル) 甘井抄「咄ナガ」
滋苦サ末ナシ愛ナキあざまよ
空種ノ良藩 ヤオサノ人まにあざまよ〔上ノ二「文アイト二十無ク作リ出ルヲ奉ル時ニ一天下ノ人皆言ヒあざみテソノタビ後蔭一人進士ニナス」
挾表ロロロ あさみサワガセタリ
濃松ロロロ 甚キあざむ気色モ見セズ」
宇治拾遺 四ノ十九、慈恵僧正「煎豆ヲ投ゲヤルニ一間バカリ退キテ居タヤ
ヒテ 一度モ落サズ挾マレケレバ(著三ノ)見ル者あさまズトムフイナシ」
著聞集 十ノ十三「底ノ淀川ニ入リケレバ馬モツヾキテ入リニケリ 衆人河ニ
沈ミテ見エザリケレバ上下オドロキあさみアヘリ」

オフル
オシ

あざけり 他四 嘲（あざみ[illegible]、あざむ[illegible]）恥ヅル[illegible]ナリ、[illegible]スルハおぶし、おし（唖）

(二)軽侮シ笑ス、ソシリワラフ、霊異記上ノ第十八「呰、アザケル」玉篇「呰、口毀也」字鏡十四「嗤、阿佐介留、嘲、阿佐介留、和良夫」

(三)自嘲ノ如ク用ヰテ、笑ヒ興ズ[illegible]詠ズ[illegible]後拾遺序「近クサブラヒ遠ク聞ク人、月ニあざけり風ニアザムクコト絶エズ」（愛ヅルヲ[illegible]ニ興味アルコトニ言フ語ナルベシ）

あざむく 他四 欺（[illegible]）[illegible]ナル語カ

[illegible]字鏡、二十一「欺、阿佐[illegible]」

あさまし 形二 浅

自浅シ、井ナリ 万十四ノ十五「遠江引佐細江ノ澪標（深キモノニ云フ）我ヲ頼メテ安佐麻之モノヲ」（口志淺キニ云フ）

~~[illegible]~~

あさまつりごと 朝政（テウセイ 朝政ヲあさト見テノ文字読ノ語ナリ[illegible]）（朝所 あしたところ[illegible]朝廷[illegible]）

~~あさまつりごと[illegible]長恨歌[illegible]~~

朝廷ノ政務、太政官ノ朝政所ノ政事 綏靖即位前紀「久歴朝機」私記「ミカドノマツリゴト」

「安左万津利己止」字和抄「早朝、アサマツリゴト」夫木、「サハカリノ朝まつりごとモ筆ゾヨドド代代ニ捨テヌハ敷島ノ道」

源、桐壺「朝ニ起キサセタマフトテモ明クルモ知ラデトオボシ出ヅルニモ尚ホ朝まつりごとハ怠ラセタマヒヌ（カメリ）」（長恨歌ニ玄宗帝楊貴妃ヲ寵シテ[illegible]作リ設ケ先筆ナリ「春宵苦短日高起、従此君王不早朝」）

オフレ
オシ

欺キ笑フ

あざけり 他四 嘲（あざみ惘む 聰る ニテ罵ル、おふし、おし（唖））
（一）軽侮シ笑ス、ソシリワラフ、霊異記 上ノ第十八「呰、アザケル」玉篇「呰、口
毀也」字鏡十四「嗤、阿佐加留、嘗を留、和良夫」
（三）自重ノ如ク用ヰテ笑ヒ興ズ、ヲ詠ズ、後拾遺、序「近クサブラヒ遠
ク聞ク人、月ニあざけり風ニアザムクコト絶エズ」（愛ヅルヲ殊ニ興味アルサウニ詠ジ）
あざむく 他四 欺（あざみ惘む向く 他動）
（一）惑ハス、イツハル、タバカル、ダブラカス、スカス、ダマス。字鏡二十一「欺、阿佐
牟久、伊豆波留」（三）謀ル、アザケル、天智紀六年三月、近江遷都「是
時天下百姓不願遷都、諷諫者多」（三）侮ル、軽侮
幼キ者ニ左右ナク恥辱ヲ與ヘラレケルコソ遺恨ノ次第ナレ、カル事ヨリ
ミテ人ニハ欺カルゾ（四）興ジテ吟ズ（あざけるノ（三）ヲ見ヨ）「月ニあざけり
（自動詞ノ如ク用ヰテ）風ニウソブク」

あさましし（形二）浅
白浪ミ 井ガカリ 万十四ノ十五「遠江引佐細江ノ澪標（深キモノニ云フ）我
ヲ頼メテ安佐麻之モノヲ」（志浅キニ云フ）
あさまつりごと「朝政（朝政ヲあさト見テノ文字読ノ読ナリ）（朝所ノあしたどころ 朝廷）」
あさまつりごとハ長恨歌ノ作リ説
朝廷ノ政務、太政官ノ朝政所ノ政事 綏靖即位前紀「久歴ニ朝機ニ」私記
「安左万津利己止」字ヲ扶「早朝、アサマツリゴト」夫木「サハカリノ朝まつり
ごとと繁ケレド代代ニ捨テヌハ敷島ノ道」
涼、担当ノ「朝ニ起キサセタマフトテモ明クルモ知ラデトオボシ出ヅルニモ、ナホ朝まつりごとは怠
ラセタマヒヌ（カメリ）（長恨歌ニ）揚貴妃ヲ…ニテ作リ設ケ「春宵苦短日高起、従此君王不早朝」

空穂、按
開、下、ノ「一日あさましく飲べ醉ヒテ」

あさまし 形二 驚歎（おぞましおぞましニ通ズ）

(一) 驚クホドニ甚シ。思ノ外ニ肝潰ル（イミジキニモ悪シキニモ云フ）

源、桐壺「カカル人モ世ニ出デオハスルモノナリケリトあさましきマデ目ヲ驚カシタマフ」同二十七「アゲオトリヤト疑ガハシクオボサレツルヲあさましう添ヒタマヘリ」

古今〇〇 詞書「雪晴レヌ浅間ノ山ノあさましや人ノ心ヲ見テコソ」

ヤマメ」宇治拾遺十一「大ナル男三人、幾程モ隠レズ切伏セタルあさましく道ニ大刀カケ」

(三) 興ノ醒ムル、アキレタルナリ。茫然自失

源三十木四十五「涕テモテキタレバ女房あさましきニ涙モ出デキヌ」

枕草子、五五 あさましきモノ「刺櫛ミガクホドニ物ニツキサヘテ折レタル」

あさみ 浅處 川ナドノ水ノ浅キトコロ

源、葵「あさみニヤ人ハ下リタツ」

あさみけ 朝御食 みけノ条ヲ見ヨ

あさみどり 浅緑 みどりいろノ薄キモノ 天治本字鏡十二ノ二十九「草緑阿佐彌止利」

万十の一「浅緑染メカケタリト見ルマデニ春ノ柳ハ萌エニケルカモ」

永久四年百首「遥々トあさみどりナル大空ニ遊絲ヲキナガメクラサム」

あさみや 朝宮 (一) 朝宮内ノ朝ノ奉仕 朝ノ宮ニ奉仕ツカヘ。御饌ナドノ事ナルベシトモ云フ

万十三ノ四「朝宮ニ仕ヘマツリテ」

(三) 夕宮ト並ベテ朝夕ノ宮内ノ御事

万二ノ三十六 春日香皇女殯宮ノ歌「朝宮ヲ忘レタマフヤ夕宮ヲ皆キタマフヤ」

書紀二十九（雲隠セサセタマヒシヲ云フ）

あさむ 代四 三 〔譏〕 いさむニ同じ 垂仁紀四年九月「有譏兄之情」継体紀六年十二月「其妻固要曰云ニ」其妻固諫曰稱疾莫宣」

~~あさ・め 〔朝日眼〕 朝ニ眼ノ潰レタル（寝眼ト云フ語アリ） 古事記中○○○「横刀云ニ阿佐米ヨク汝取リ登持チ」 沙行十ハノ一○九六」 故夢ノ教ノ~~

あさめしまへ 〔朝飯前〕 朝ニ起キテ後、朝飯ヲ食フ前。（二）僅ナル間隙。（手少時間ナリ）容易ク成シ遂グルコトヲ朝飯前ノ仕事ト云フ

(三) 摂ル所ニ適キ者。[illegible]

あちめーじ（頭）[illegible]

[illegible]

あちーぢ 鯵 [illegible]

[illegible] 其妻国 [illegible] 其妻国 [illegible]

あちち [illegible]

あざやかなり（あざらかは別）

あざやかなり〔副〕鮮 [illegible]（あざらかナド通ズ）

〔千載〕わたりまし あざやかまし（摩德）」

麗カルニ分明キトニテ。「字鏡、三十八「鮮、鮮盛之皃、阿左夜加爾、宇留

和名」

あざやぐ 自四 鮮〔[illegible] あざやかなる事。まばやかさはやぐ 類語あり」

鮮カニナル。

あざーやぐ 自四 八 鮮ぐ トヒ同根ノ語ナルベシ 荒ブ。

源、手習、二十四「白キ單衣ノナサケナクあざやぎタルニ袴モヒハダ色ニナシヒタルニ

ヤ光モ見エズ」同、寄生、二十七「物々しくあざやぎテ心バヘモタヲヤカナル方ハ

十ク物ホコリカニナドヤアラム」同、少女二十二「あざやぎタル御心ニハ[illegible]ヅメガタシ」

あさ－ゆ　朝湯　朝ニ早ク浴ミスルコト。多ク八市中ノ錢湯ナルニ云フ

あざらか　鮮（あざやか）（へあざやかに開通）［「鮮」上に〈副〉］霊異記下ノ第一「見髑髏舌至于三年其舌不腐（ムクサカニ）生有」

訓釈「生、善左良可尓三豆」（高野本）

土佐日記○○○「或人あざらかなる物もてきたり、米してかへりごとす」

あざらけし　形一　鮮　霊異記下ノ第六「鮮（アサラケキ）」アザラカナリ、イキイキトしたり（魚ニ云フ）

仁徳紀「鮮魚（アサラケキウヲ）」

10

あさる　他四　求食　一八朝食ノ朝ガ活用、（雲ス、落ス、箱ス）漁ス、朝餌キ

漕グ」ナド同趣ノ語ヲ含ム。鳥獣朝ニ棲ヲ出テ食ヲ求メ人モ亦朝採朝漁ス

（二）餌ヲ探リ求ム。禽獣ニ云ヒ人ニモ云フ。

△万四○○○「吾下江ノ入江ニ求食（アサリ）鶴」

万六ノ三十一「朝ニ海辺ヲ安左リ夕サレバ大和ヘ越エル雁シ羨シモ」（難波

三テノ詠　万三ノ五十八「朝獵ニ鹿猪踐（ミオコシ）」

夫木、三、春「冬枯ノ裾野ノ草ヲ焼キシヨリ早蕨あさる雉子鳴クナリ」

△　万一ノ十八「求食（アサリ）スル海人ニ持

六三　穗嵯峨院○○「人々鷹手ニスヱツツ參リ採リタマフママニ狸毎ニ

あさらセタマヒテ」宇鏡三十「鵡、阿佐利波牟」

（三）專ラ江海ニ魚ヲアサル、イサル、スナドル、

源渡衆二十九「伊勢島ヤ汐干ノ潟ニあさりテモ言フかひナキハ我ガ身ナリケリ」

漁ニテ求食ヲあさりせん

〔三〕アナクリサグル、サガ目ヲダス。
雄略即位前紀「阿婆理(アサリ)出(ヅ)ナ猪(シシ)(埋ノタル屍ヲ求ク)」字鏡抄「捜 アサル」
~~新字鏡、手部「朝、阿佐利波牟」~~
空穂、ただこそ「盗人入リマシデ来テ云々、装束ナド皆目(さがし)トリテ云々
調度ナド皆あさり取リテマカリレカバ」紫衣、浦々の別「只今ハ都ノ
内ヲ離ルベキニアラズ、ヨクヨクあされあされト宣旨頻リナリ」

ア

シラベル

あさり　漁「アサルコト、イサリ、スナドリ」
万三ノ三十五「磯廻(イソミ)ニ」四五ノ二十「阿左利(アサリ)スル海人ノ子ドモ」
~~あさり　捜索~~
アザリ　阿闍梨　末ニ⑮十訓抄、下、第十「三井寺覚讃僧正年耳ナリテ有
勝ヲユルサレザリケルガ熊野ニ詣デ「山川ノあざり(砂石ニカク)トナラデ
沈ミナバ深キ恨ミノ名ヲヤ流サム」鳥羽院聞召シテ阿
闍梨ニナサレタリ」
あさり　浅「(浅ると活用シタル、ソノ名詞形カ)」川水ノ浅キトコロ、浅瀬
発心集、四、武蔵ノ入間川洪水「堤ハ、サナガラ白波ニテイサカノあさりダニナシ」
著聞集、一「あさりニハ、しばしば浜ムヅ、山川ノ流レモヤヲ又物ナ思ヒソ」
あさだつ　自四「朝立」(夕立(ユフダ)ツモアリ、気筆集)朝ノ気色ダツ
続拾遺の西行旅「卯雪ニ秋トハ路ヲツケジトテマツ朝だたム人ヲ待ツカナ」
(拾玉、五「霞ヲツツム峯ノあさだち」)

△ 同宿木「手ナ掻ビソト、イタクあざれカレド」

あざる 自下二「鯘」（あざるハ腐敗ノ語、あざらる義、あざらすノ自動）あ迫る（呼急）

餒ル。饐エ。（魚肉ナドニ）字鏡ニ「膶、魚肉爛也、臭也、豆久佐之、又阿左礼太利」同七十二「鯘、魚乃臭己称太々礼留」和名抄十九ノ五「鯘、鯘、阿佐留」

あざる 自下二「戯」（あざるハ戯ノ語、あざる義、前條ノ語義ヲ見ヨ）

(二) 戯ル、サル、ザルン、フザケル。「天治字鏡三ノ二十一「戯、阿佐礼和佐須」

土佐〇〇〇「上中下、酔ヒスギテ、イトアヤシク、潮海ノホトリニテあざれアヘリ」

（掻ト鯘ルトニカケタリ）△ 源、藤裏葉「オホヤケザマハ、少シたはれテあざれタルカタナリヒ」

(三) 取り乱ル。（乱ル。シドケナク、アザケ荒ブ。）源、花宴「皆人ハ、袍ザルニ、あざれたる大君姿」ノ（ナメキタルニテ）同 紅葉賀「あざれタル桂姿ニテ笛ヲナツカシウ吹キスサビ」

此語、古クハ四段活用ナリシカ、万五ノ四十「立チ阿射里、我カ乞ヒ祈メド、須臾モ快ケクハナシニ」（子ノ病死ニ云ヘルナリ）

あざる、自四下二「荒」（鯘る、戯る、ト同根ノ語）

荒ブ、荒ブ、アザヤグ、乱ル、取リ乱ニタリ。

源、藤裏葉〇〇「オホヤケザマハ少シ戯レテあざれタルカタナリ」

⊕ カード

あざればむ 自四（荒るヲ見ヨ）

荒レガマシク見ユ。荒ブ。荒ブ。

田 区

雨ノ足 雨降ル程合 雨脚 雨足 平兼盛集「君ヲ思フ数ニ

ハ取ラバ、ヨイミニナク降リシク雨のあしハモノカハ」 蜻蛉日記○○○「今日

二十四日雨のあし、イト長閑ナリテアハレナリ「降ル雨のあしトモ落ツル涙

コマカニ物ヲ思ヒクダケバ」

あしがきの 枕「葦垣」ハ物隔リテ見エネバ古ニセリ 穏ノワニケタルヨリ 乱るニ、結目細ゲ

ケバ間近ニカカル。古(フル)。乱る。間近ノ枕詞

万六ノ十四「難波ノ國ハ葦垣乃古舊リニシ里ト」

万九ノ三十四「葦垣之思ヒ乱レテ鶯ノ鳴キニ鳴キツツ」

古今十二〇〇「あしがきの間近ケレドモ逢フ由ノナキ」

あしかた 足形 あしあとニ同じ

枕草子、五、……「カヽル雨ニ昇リハベラバ、あしかたツキテ、イト不便ニ穢(キタナ)ゲニ

ナリハベリナム」

あしがため 足固 (一)歩行ヲ健ニセムト未歩ヲ馴ラスコト、アシナラシ (二)足ヲ踏ミ固ムルコト。 (三)柱ノ傾カヌタメニ下部ニ短キ貫(ヌキ)ヲトホシテ地ニ埋メルコト

庭訓往来、三月〇〇〇「〇〇〇〇足堅〇〇〇〇」 㩲首 天井緣

チリく

あしかのばん（名）葦鹿傳ノ長ナ

あしあし（副）足足（足並揃ハズナリテ列ヲ乱シテ。大友興廃記「此度

ノ軍ニ林慶足足ニナリ引取リ」

あしがる　足軽（歩行軽ク駈ケル意）（一）足利時代文明年中始メテ起ル

野武士ナドノ悪党ノ強盗ヲナス者（日陽漫録ニ引ケル樵談治要）ノ輩

奇異雑談集（天文）一ニ京都ノ足軽清水寺ニ参詣スルモノ刀脇差ヲサセテ

中間ヲ従ヘ行クトアリ　応仁ノ乱中ニコルイテ云ヒ一人ノ足軽

（三）後ニ武家ノ常備ノ兵卒ノ徒歩ニテ出立ツ者。（馬上ノ侍ニ對ス）雑兵

歩卒

あしがるがしら　足軽頭　足軽ノ隊長　物頭武頭。　歩卒長

あしきりのけい　非刖（足切ル罪）支那ノ刑ノ剕字ヲ訓読シタ語　瑾叢、百官公卿表、註「剕、去膕骨也」一名剕ハ刖、アシキリ、アシキル　膝骨ヲ切リ去ル

あしくせ　足ノ癖　相撲ノ技ノ名　我ガ足ヲ相手ノ足ニカクルコト　身ヲ守ルニモ行ヒ相撲ヲ相手ニアビセテ倒スニモ行フ

あしげ　足蹴（蹴ノ二音字ハ蹴ヲ成カスニ因テ足テ添テ云フ）蹴ルコト「人ヲ足蹴ニシタリ」

あしげ　葦毛（葦牙ノ色ノ毛ノ義）馬ノ毛色ノ名　青白キ（モノ雑毛）白色里青ノ雑毛　騅

和名抄十一ノ六「騅、葦毛、青白如葦色也」詩経大車

毛傳「騅、葦之初生者也」

あしはなげ　葦花毛（葦ノ葦ニ黄花ノ白キカ散リカカルヲ言）馬ノ毛色ノ名。青色ト白色ト雑レルモノ。黄驄馬

和名抄十一ノ五「黄驄馬、葦花毛馬也　青白雑毛馬也」又、乱青

拾遺

あしほちや　葦久保茶　駿河ノ葦久保ノ地ニ産スル茶

あしからず（副）不悪　ヨロシク。「不悪思召サレヨ」

あしかがじだい　足利時代　室町時代ニ同ジ

あしげい　足藝　足ヲツカヒテ種々ノ技ヲシテ人ニ観セルモノ。足ニテ琴三味線ヲ弾キ徳利生花紙ヲ折リ紋ヲ切リ楊弓ヲ射投扇興ヲ行フナド

あしで

あしーがね　足金　﹝語原詳ナラズ。足緒ニテ吊ルガ二條ニナレバ両脚ノ意ニモアルカ﹞　太刀ノ金物。略シテ足トノミ云フ。鞘ニ附キテ二所アリ。鐺際ニアルヲ一ノ足ト云ヒ数寸離リテアルヲ二ノ足ト云ヒ其間ヲ足間ト云フ。各小サキ鐶アリコレニ帯取ヲ通シテ革腰ニ吊リ佩ブ。緒ヲ足緒（足の緒）（太刀ノ緒、帯取ノ緒）ナリ

あしじろーのーたち　足白太刀　足金ノ銀造ナル太刀

あしすだれ　葦簾　葦ノ茎ヲ絲ニテ編ミ作レル簾　空穂藤原の君「蔀ヒトツアケテあしすだれ掛ケタリ」

あし

あしーずり　自四　足摩　足ニテ地ヲ蹈ミ摩ル。アガク。怒リ又悲歎スル時ニスルコトナリ（チダンダフムフ）　万五ノ四十「立チ躍リ足摩叫ビ伏シアフギ胸打チなげき」

（三）進マズシテ其ノ場ニ蹈ミ留ルコト。進ミ得ズ。躊躇　天治字鏡十二ノ二十三「蹢躅　不退而憤之皃　立豆万豆久、足須留」　名義抄「蹢躅　アシズリ」

あしずり　足摩　アシズリ　萬九ノ十八「立チハシリ叫ビ袖振リ反側ビ足受利シツツ」　源氏蜻蛉「足ずりといふことをして泣くさま若き子どものやうなり」

あした　朝　明時ノ暑カあした約マリテあさとなる

（二）翌　同ジ　字鏡「二翌　晨　阿志太」　万十八ノ十三「ホトトギス明ケム来之多ハ鳴キワタラムゾ」

（三）アクルあしたト云フヨリ転ジテ、明日、明日。「又ハヤヌバタマノ夜見シ君ヲ明日ハ……」　天智紀三年十二月「……」　孝徳紀四年五月

あしたたず　足不立　身体不随　中風ニテ歩ミ得ズ病。名義抄「……」　不仁、アシナヘ

あしだち　足立　足ニテ立ツトコロ。タチド。竹崎五郎絵詞「アシバノ……足たちわろく候」　盛衰記三十六ノ十二條「此山ノ足立悪シ」

あしたづ【葦鶴】（多ク葦辺ニ居ルニ因リテ言フ）鶴ノ異名。葦鴨、葦蟹ニ同ジ。或ハあし
ハ来食（アサリ）ノ約ナリト云フ説アリ。鶴ト云フニ同ジ。鶴（ツル）。和名抄「鶴、俗謂鶴為葦鶴」十八ノ十三
万四ノ二十八「草香江ニ来食（アサル）葦鶴ノ」万六ノ十二「葦辺ヲサシテ多頭鳴キワタル」
万十ノ四十「葦名頭ノ騒ク入江ノ」

あしたづの 枕 葦鶴 音多く、たづたづしノ枕詞。
万三ノ五「君ニ恋ヒイタモスベナミ葦鶴之哭ノミシ泣カユ朝ニ夕ニ」
古今十二〇〇「忘ラルル時シナケレバあしたづの思ヒ乱レテ音ヲノミゾ泣ク」

あしだれぼし 尾宿（足垂星ノ義。星ノ形ニ云フ）二十八宿ノ一ノ名。

あしついで 足序 みちついでノ条ヲ見ヨ。

あしづの【葦生】【葦角】（アシカビ）葦ノツノグミタル芽。
和名抄二十ノ十六「葭、葦、蘆、又初生也。阿之豆乃」六帖六「あしづのノ生ヒ出シ時ニ
天地ト人トノ品ハ定マリニケリ」

五月雨日記（東山時代）「香包ハ必ズあしでがきニスベシ」
字王抄「葦手文字也」

あしで【葦手】（葦手書（あしでがき）ノ略）【葦手書】【葦様書（アシデガキ）】【葦様書（アシザウガキ）】【葦様】書体ノ名。
（一）書法ノ一種。水ナド書キテ傍ニ歌ノ文字ナドヲ墨ニテ細クツヅケテ葦ノ生ヒタ
状ニ擬シテ書キナセルモノ。又岩厳ノタヽズマヒ、家、鳥ノサマナド文字ニテ書キ添フ
ルモアリ（又水手、歌絵アリ）多クハ墨ニテあしでトノミ云フ。
源、梅枝、十四「あしで、歌絵ヲ思ヒ思ヒニ書ケト宣
ヘバ宰相中将ノハ、水ノ勢ヒ、ユタカニ書キナドシテ、ソソケタル葦ノ生ヒザ
マナド云ニ引キカヘテ文字ノ様、石ナドノタヽズマヒ、好ミ書キタマヘル枚モアリ」
拾遺〇〇〇〇「洲浜ノ書物ニアマタノ歌あしでニ書ケル」住吉紗謡〇〇〇
「蘆ノ屋ニ心ボソク煙ノ立チノボルケシキ、落星ニカケルあしでニ似タリ」
（三）紅ナドニテ葦手ヲ下絵ニシタル紙。堀河院艶書合「紅ノ七重ガサネ
ニ下絵ニあしで書キテ」拾玉〇〇〇「ナヤグレノ難波アタリヲ行ク雁ヤ」

ナト
ならん

あしで ノ上ニ書ケル玉挿」

あしだま　足玉　ぬびだまヲ見ヨ

あしつを　葦津緒　太ノ絢ト作ル緒ナルベシ
字類抄「葦津緒、アシツヲ、着緒也」
台記、仁平元年八月九日、春日詣ノ「引葦津緒、綱懸亘、舞人五人装束」
新撰六帖、五「長東レド東ノ琴ノあしつをニヨリカケテケル…」

あしなか　「足半」（足ノ半ノ義）　あしなか草履ノ略ナルベシ　足
ここニ穿ケル物ハ長草履ノ
草履ノ踵ニ當ルトコロノナキモノ　其形古書ノ類ニ雑色牛飼ナドニ見ユ
喜長　草履ハ徒歩奔走スル者ニハ後ヘ泥土ヲハネアグルニ困テ半ニセシナリ今モ然
尾ヲ棹ヲ肩ニ當テ擔ヒ　師ノ用ヰル以送ニテ歩ノメバナリ　靸鞋
歌林雑話集　ーーー　明ノ輟耕録、十八ノ「西浙之人、以草為屨
而無跟名曰靸鞋」

あしなが　「足長」てながノ條ヲ見ヨ

あしのうら　足裏（アナウラ）足ノ地ヲ蹈ムニ當ルトコロ。字鏡十九ノ「蹠、足乃宇良、足乃志太」　蹠　足ノ甲ノ裏ニ

後撰　雑三、あしのうらハイトキタナクモ見ユルヲ…

あしのかふ　「足甲」（アナヒラ）足趾ノ上面、蹠ニ對ス、甲高ノ足袋　趺　跗

あしのけ　脚気（カクビヤウ）今、脚気、和名抄三ノ十ノ「脚気、一云脚病、俗云阿之乃介」源順集ノ「あしのけニミミ煩ヒテ竹籠リハベレバ」

あしのや　葦屋（アシヤ）　葦ニテ屋根ヲ葺キ作レル家

あしばやみ（跡）足早　歩ミ方早キ、唐義記五ノ、行綱西忠「取聳シテ足ばやニコソ渡リニケレ」

あしのや　葦矢　葦ノ茎ニテ作レル矢、桃弓ト共ニ追儺ニ鬼ヲ射ルニ用ヰタル」中務省式ノ「以桃弓葦矢、頒充儺人」

あしはら　葦原（一）豊葦原ヲ見ヨ（二）葦ノ生ヒ茂ル地　古事記中ノ「
阿斯波良ノ繁キ小屋ニ菅畳イヤサヤ敷キテ我ガニ人寝シ」

神武紀「葦原ノ安志波良田ノ穢キ…」

〇

△燒シドモ住ミ好ケヨ（武蔵人ノ詠）

あしーづーから　芦荻之詳　ミヅカラ、テヅカラ、ナニロツカラ

あしーび　芦火（芦ノ乾キタル）芦ノ薪ヲ火ニ焚クナリ　万十一ノ二十七、「難波人芦火焚ク屋ノ煤（スシ）タレド」東詞ニ「あしぶ　万二十ノ四十、「家ニハ安之布」△

あしびきーの（枕）足引（生繁キ木ノ約轉（冠辞考））下草十四ノ三十四「〇〇〇〇〇」ハ生ナ

葦木ノ莖（任止布ヲ連体形ニ用ヰタル例此外ニナシ）（母ヲ於母、阿母、幼稚ナルヲおとこ子し、あど

まし、あどかるし上古ノ山ヲハ樹木自然ニ繁カリシナバ山ニカカル（万七ノ二十八「青山ノ葉繁キ山」）山ノ枕詞

（葦池中ノ二十「阿志比紀能山田ヲツクリ」山ト同義ナル二

一万十九ノ十「足引乃八峯ノ雉」同巻十二「足引乃峰ノ桜」又山ヲ略シテ、万三ノ四十四「足日本能（山ノ）石根」四十ノ十三「足檜木乃（山ノ）」）

同八ノ二十八「足引乃（山ノ）木間」

あしーのーはーぶえ　芦葉笛　芦ノ葉ヲ巻キテ笛トシテ吹クモノ（笳）連歌ナドニ見エ。

壓滌墟囊十六「笳ハ葦ノ葉ヲ巻テ胡人ノ吹ク鳴物也」